

---

公共交通を活用した  
石鎚山系周遊型ルート構築事業  
報告書

---

四国運輸局  
平成29年3月

## <目 次>

### 【本 編】

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 1. 事業概要                     |    |
| 1-1. 事業の目的                  | 1  |
| 1-2. 事業実施箇所（コンサルティング応募者）と現況 | 1  |
| 1-3. 事業実施箇所における現状認識と課題の抽出   | 3  |
| 1-4. 事業の実施体制及び方法            | 15 |
| 2. 観光まちづくりアドバイザー会議の実施       |    |
| 2-1. 第1回観光まちづくりアドバイザー会議     | 17 |
| 2-2. 第2回観光まちづくりアドバイザー会議     | 33 |
| 3. 観光まちづくりアドバイザー会議による提案     |    |
| 3-1. 団体向け「商品造成」について         | 38 |
| 3-2. 個人向け「商品造成」について         | 39 |
| 3-3. 今後の受入環境整備について          | 41 |
| 3-4. 事業の成果について              | 43 |

### ■参考資料

○観光まちづくりアドバイザー会議出席者名簿

# 1. 事業概要

---

---

## 1-1. 事業の目的

今年度は、愛媛県西条市・久万高原町・高知県のいの町からもご提案いただき、公共交通を活用した周遊ルートの構築事業を実施することになった。西日本最高峰の石鎚山は、古くから山岳信仰登山が盛んな霊峰として日本百名山にも名を連ね、近年では、登山ブームも相俟って登山シーズンにかけて登山者で賑わっている。しかし、これらを一過性のブームとして終わらすことなく、多くの登山者に訪れていただくための仕組み作りが必要と考える。また、石鎚山系においては主要な登山口への交通アクセスにも課題があり、公共交通ではなく、登山者は車によるアクセスが大部分を占める。今後、持続的に全国から登山者に訪問していただくためにも、様々な交通手段を考慮した利便性の高いアクセスルートを考案しつつ、周辺の観光資源を含めたモデルルートを構築し、旅行商品造成、誘客促進を図ることを目的とする。

## 1-2. 事業実施箇所（コンサルティング応募者）と現況

### (1) 実施箇所の紹介

石鎚山系周辺自治体（愛媛県西条市、久万高原町、高知県のいの町）



### ①愛媛県西条市

西条市は平成 16 年に西条市、東予市、小松町、丹原町が合併し誕生した。愛媛県下で 3 番目に広い面積を持ち、南には西日本最高峰の石鎚山、北には瀬戸内海と、海と平野と山が揃っている。また、「水の都」とも呼ばれており、全国的にもまれな被圧地下水の自噴地帯が広範囲にわたって形成されていて、豊富な地下水が湧き出している。その地下水は「うちぬき」と呼ばれ、飲料水としての利用はもちろん、数々の利水産業の興隆を促してきた。

観光面においては、道後温泉、鈍川温泉とともに「伊予の三湯」に数えられる「本谷温泉」が位置する他、秋には絢爛豪華なだんじり・御輿・太鼓台が練り歩く「西条まつり」、冬には雪化粧した石鎚山が見られるなど四季折々の見どころも存在する。

一方、人口は愛媛県下で 4 位の約 11 万人であり（平成 28 年 8 月末）、工業製造品等出荷額は約 8,593 億円（平成 24 年度工業統計調査）に上り、愛媛県東予地方を代表する都市である。

### ②愛媛県久万高原町

久万高原町は、愛媛県のほぼ中央部に位置し、久万町・面河村・美川村・柳谷村の 4 町村が平成 16 年に合併した自治体である。松山から三坂峠を越えて松山中央部から約 30 km に位置し、総面積は約 584 km<sup>2</sup>、標高 1,000m を超える四国山地に囲まれた山間の地域で、土佐湾へ流れ込む仁淀川から分岐した、面河川、久万川が縦走する水源地域となっている。久万高原町は、緑あふれる森林や仁淀川水系が生む水辺環境とともに、美しく深い自然に恵まれ、かつ、県庁所在地である松山市にも隣接していることから、都市との交流地域、近郊農村地帯、周辺住宅地としての自然的・地理的特性を有している。

### ③高知県いの町

いの町は、平成 16 年に伊野町、吾北村、本川村が合併し、誕生した。合併後のいの町は高知県の中央部に位置し、四国で最も透明度の高い仁淀川の流れに沿うように南北に細長い立地となっている。そのため、旧伊野町エリアでは歴史的商家の町並みや土佐和紙など観光資源を有するとともに、旧吾北村、土佐郡本川村エリアでは愛媛県西条市や久万高原町と一体となった石鎚山系を形成し、日本最大のヤブツバキや四国随一の規模を誇る「程野の滝」など、四季折々の自然が織りなす美しい風景や棚田が広がっている。

## 石鎚山系周辺自治体（愛媛県西条市、久万高原町、高知県の町）基礎データ

|       |                               | 西条市  |                            | 久万高原町  |   | 高知県の町                     |                                      |                |
|-------|-------------------------------|--|----------------------------|--|---|---------------------------|--------------------------------------|----------------|
| 基礎    | 人口                            | 111,699 人  | H28.11末時点<br>(愛媛県第4位)      | 8,811 人  |   | 23,744 人                  |                                      | H28.11月<br>末時点 |
|       | 面積                            | 509.98 km  |                            | 583.69 km  |   | 470.97 km                 |                                      |                |
|       | 市民所得                          | 実数   | 324,728 百万                 |  | 17,612 百万                               |                           | 61,352 百万                            |                |
| 1人当たり |                               | 2,942 千円   | H25.10時点の人口割               | 1,953 千円   |   | 2,434 千円                  | H25.10月末人口<br>25,211人                |                |
| 農業    | 主要農作物                         | 水稻   | 3300 ha (愛媛県1位 22.60%)     | 水稻   | 460 ha                                  | 水稻                        | 85 ha                                | H27年           |
|       |                               | 裸麦   | 876 ha (愛媛県1位 50.64%)      | 夏秋トマト  | 26 ha ※平成28年度作況調査より                     | その他の野菜                    | 37 ha                                |                |
|       |                               | 大豆   | 144 ha (愛媛県1位 43.90%)      | 夏秋ピーマン   | 19 ha                                   | 日本なし                      | 9 ha                                 |                |
|       |                               | <small>※その他、あたご餅、豊の七草、湧下への収穫量を誇るメロン、にんじん、ほうれん草、ねぎ、いちご、キャベツ、きゅうり、梅など多くの農作物を供給する生産都市</small> |                            | <small>※標高400～600mの冷涼な気候条件のもと生産される高涼野菜が主力商品となっており、トマトとピーマンの2品目については国の産地指定を受けている。</small> |   | <small>(備考)</small>       |                                      |                |
| 工業    | 製造品出荷額                        | 85,934,343 万円 (愛媛県2位 20.76%)   |                            | 363,883 万円   |   | 2,725,944 万円              |                                      | H26年           |
|       | <small>(製造品出荷額(上位3位))</small> | 1位 非鉄金属  | 40,118,661 万円              | 1位 木材  | 208,377 万円                              | 1位 ハル紙                    | 1,971,453 万円                         |                |
|       |                               | 2位 鉄鋼  | 10,530,069 万円              | 2位 窯業・土石   | 111,485 万円                              | 2位 窯業・土石                  | 109,412 万円                           |                |
|       |                               | 3位 輸送用機械   | 10,082,044 万円              | 3位   | 万円                                      | 3位 金属製品                   | 99,546 万円                            |                |
|       | 企業数                           | 246 社  | <small>従業員4人以上の事業所</small> | 18 社   | <small>従業員4人以上の事業所</small>              | 47 社                      |                                      |                |
| 従業員数  | 9,000 人                       |  | 253 人                      |  | 1,207 人                                 |                           |                                      |                |
| 商業    | 小売業の状況                        | 事業者数   | 724 所                      | 事業者数   | 112 所                                   | 事業者数                      | 196 所                                | H26年           |
|       |                               | 従業者数   | 4,883 人                    | 従業者数   | 366 人                                   | 従業者数                      | 1,035 人                              |                |
|       |                               | 年間商品販売額  | 8,845,422 万円               | 年間商品販売額  | 419,618 万円                              | 年間商品販売額                   | 1,483,200 万円                         |                |
| 観光    | 観光入込客数                        | 3,415,853 人  |                            | 1,883,962 人  | <small>※各施設・観光スポットの数値の合計</small>        | 419,035 人                 |                                      | H27年           |
|       | 宿泊者数                          | 222,472 人  |                            | 31,475 人   |   | 29,826 人                  | <small>土佐和紙工芸村<br/>かんぼの宿・木の香</small> |                |
|       | 観光消費額                         | 7,008,626 千円   |                            | 2,332,816 千円   | <small>※上記数値に一定の金額を<br/>掛け算した数値</small> | 45,810,990 円              | <small>H27年<br/>体験活動収益のみ</small>     |                |
|       | 観光資源                          | 石鎚山、うちぬき、鉄道歴史パーク、西条まつり等  |                            | 石鎚山、面河溪、四国カルスト、古岩屋、御用木まつり等   |   | 瓶ヶ森、吉野川源流、仁淀川、氷室、紙のこいのぼり等 |                                      |                |

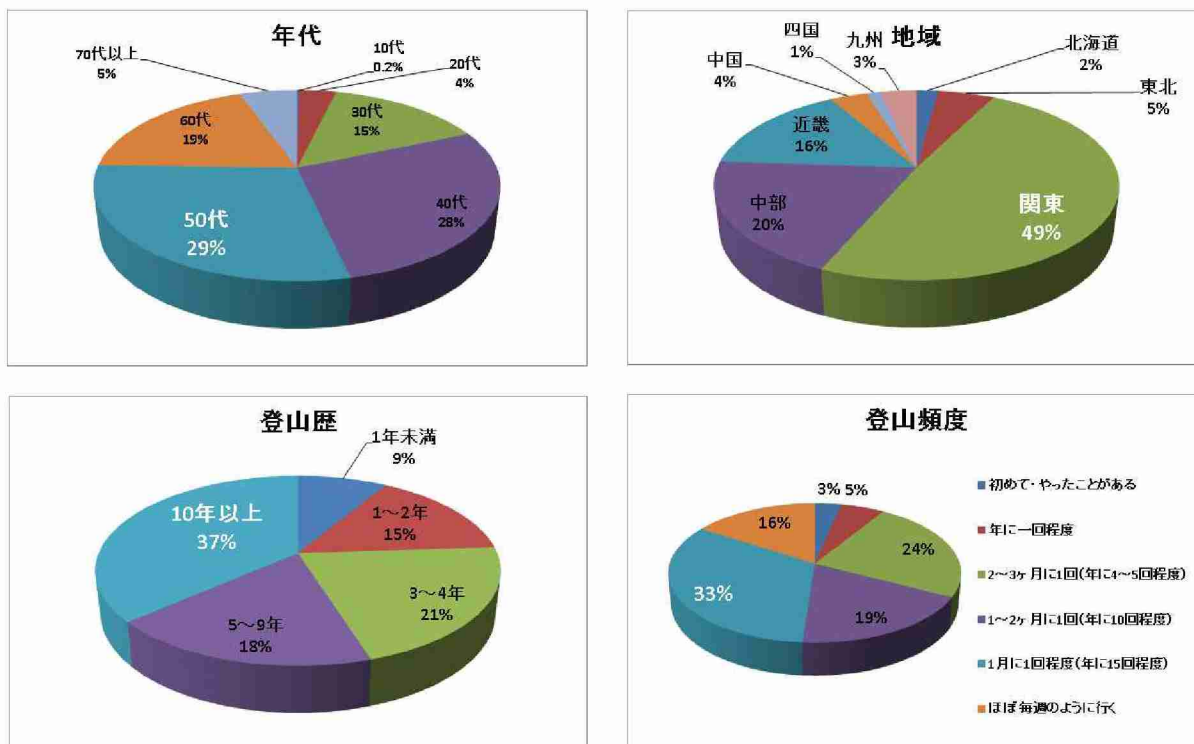
### 1-3. 事業実施箇所における現状認識と課題の抽出

事業実施箇所である、愛媛県西条市・久万高原町・高知県の町の3市町にまがたる石鎚山系について、既存のアンケート等を活用し、地域の現状認識と課題の抽出を行った。

#### (1) 参考資料 1

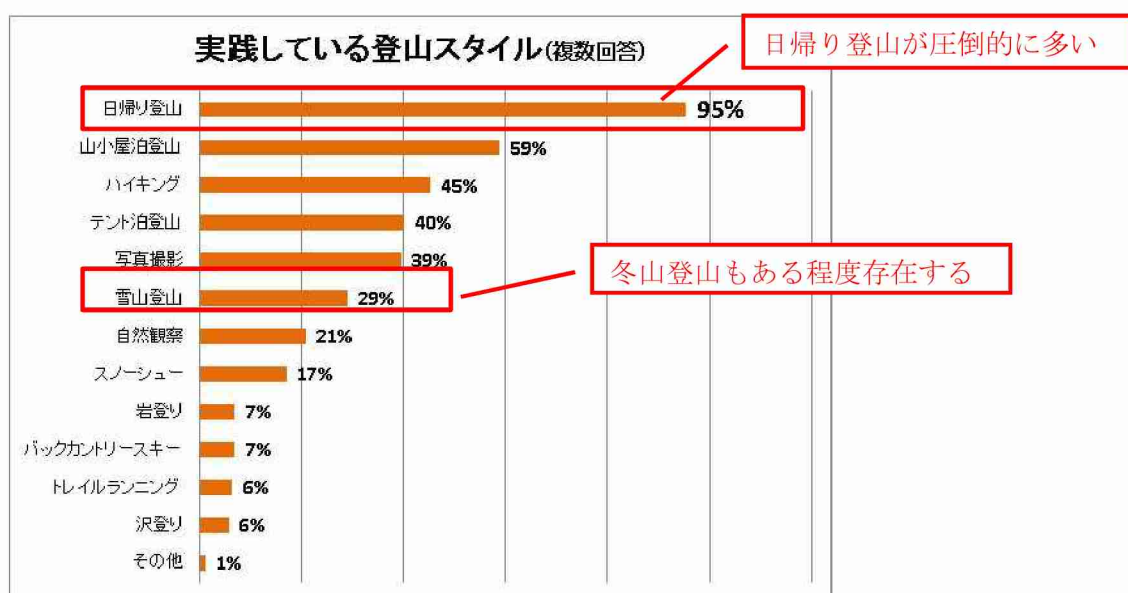
- 名称 登山における交通機関利用に関するデータ
  - 出典 みんなの「登山白書」 ヤマケイ平成25年度実施
  - 方法 インターネットによるアンケート
  - 人数 N=2,498
- 回答者は男性の割合が83%を占めることを除けば、日本全国の在住者で年齢層や登山歴も様々であるため、一般的な登山の母集団と言える。

①回答者における属性



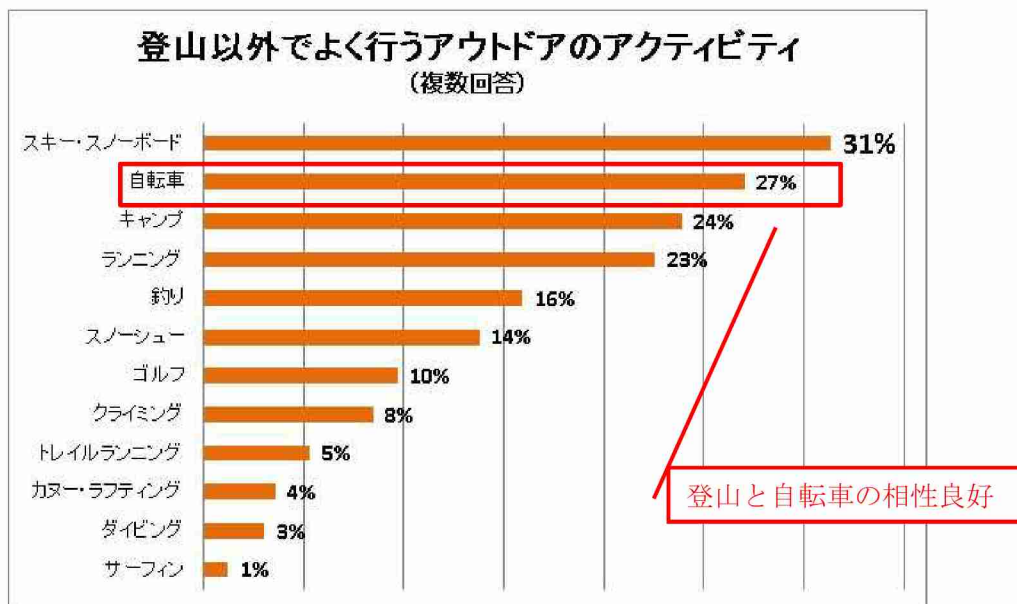
② 登山スタイル (複数回答)

まず、日帰り登山の多さが目につくが、山小屋泊やテント泊のような宿泊を伴う登山スタイルも多い。また、雪山登山も 29%の方が実践していることから、厳冬の登山も潜在的需要があるとも考えられる。



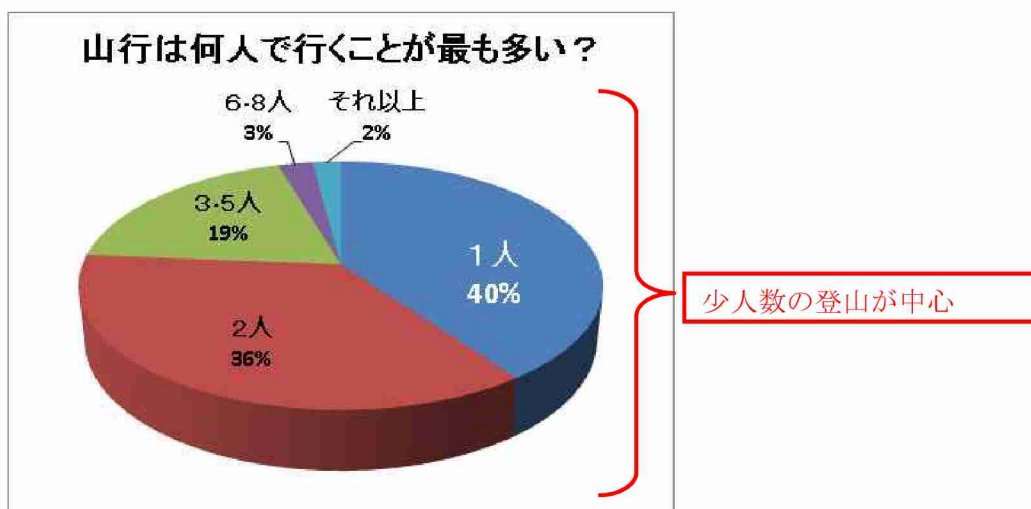
### ③ 登山以外のアウトドア・レジャー（複数回答）

雪国ならではの特征である、スキー・スノボを除けば、回答において自転車の割合が高いため、当該地域においてはサイクリングが、「登山+α」のオプションとしてアウトドア系の着地商品づくりの参考になると思われる。



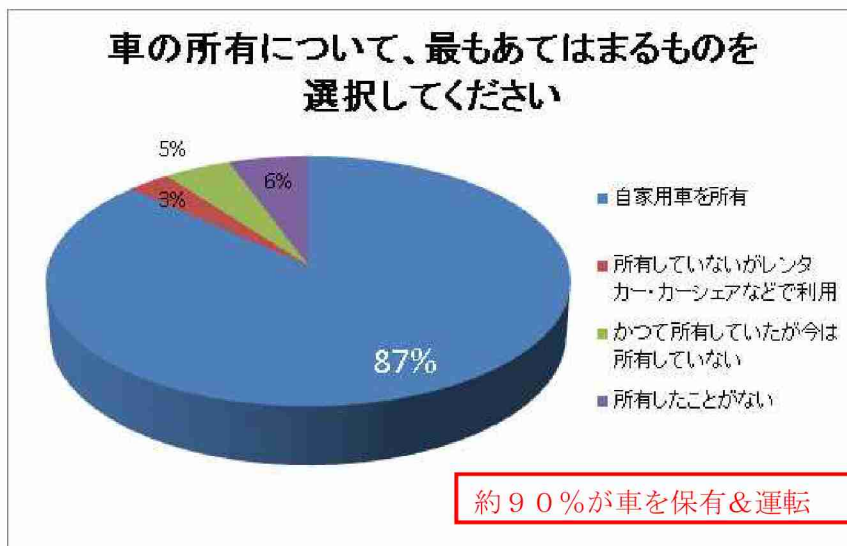
### ④ 登山する場合の人数

回答者に、近場の登山を楽しむ方が多いため、少人数での登山が大半をしめる。質問設定が登山の場合の「最も多い人数」のため、データからは団体登山（ツアー）の利用実態を読み取ることができないが、例えば関西方面から四国方面のような他地域への登山の場合、団体登山（ツアー）も一定割合あるように思われる。



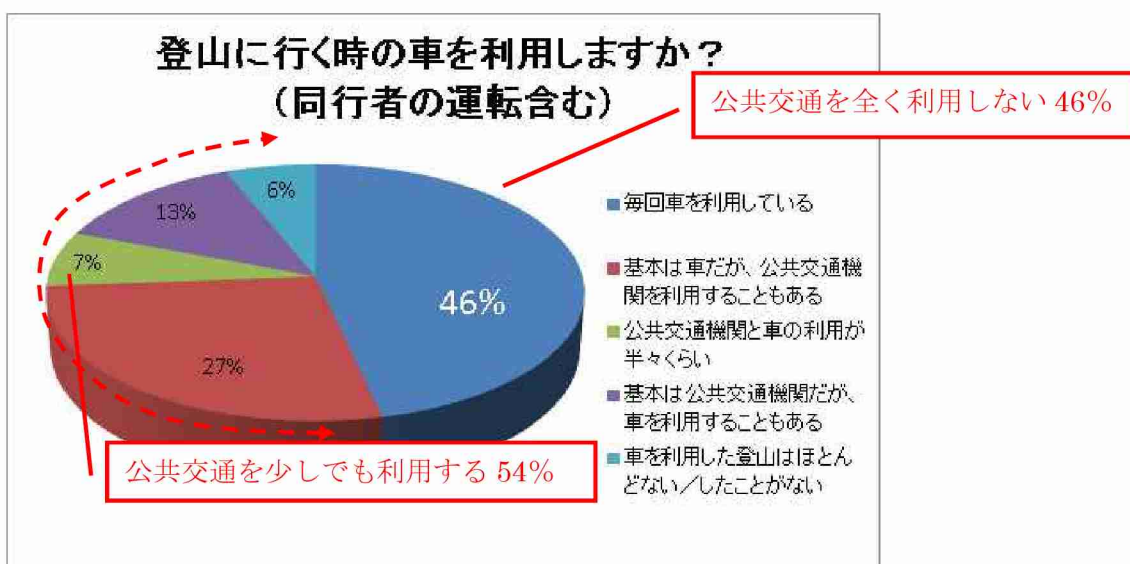
⑤ 車所有の有無について

ほとんどの方が自家用車を保有し、普段から乗っていると回答している。



⑥ 登山における車の利用率について

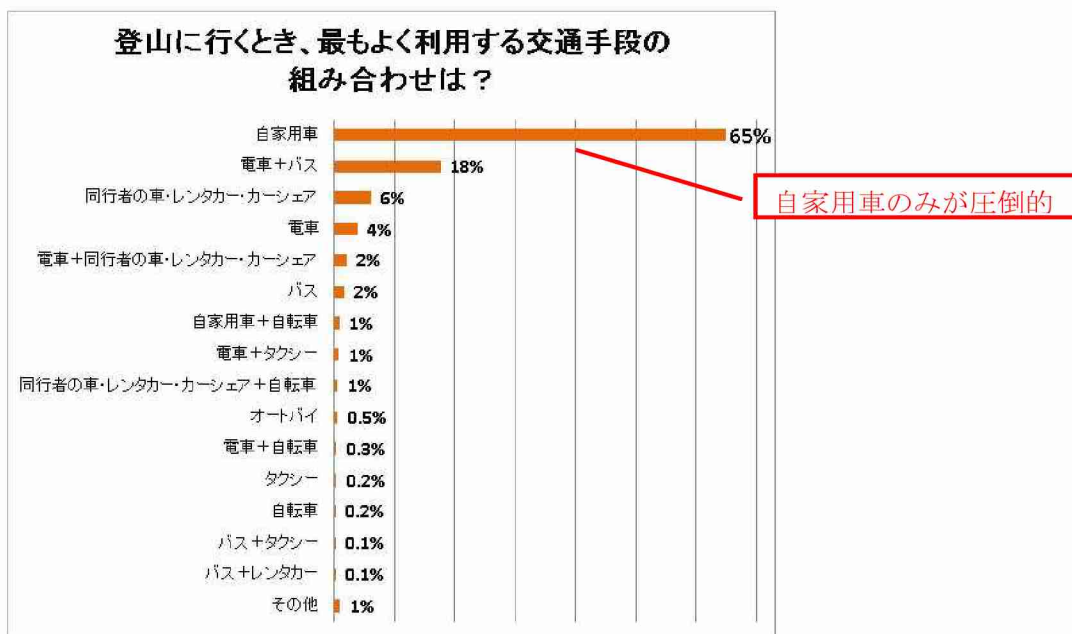
毎回の登山において、車を利用している割合が多い。しかし、半数以上の54%が公共交通機関を利用した登山にも行っていると回答しており、条件等によっては、登山における公共交通での利用も期待できると思われる。



⑦ 登山に行く際に最もよく利用する交通手段の組み合わせについて

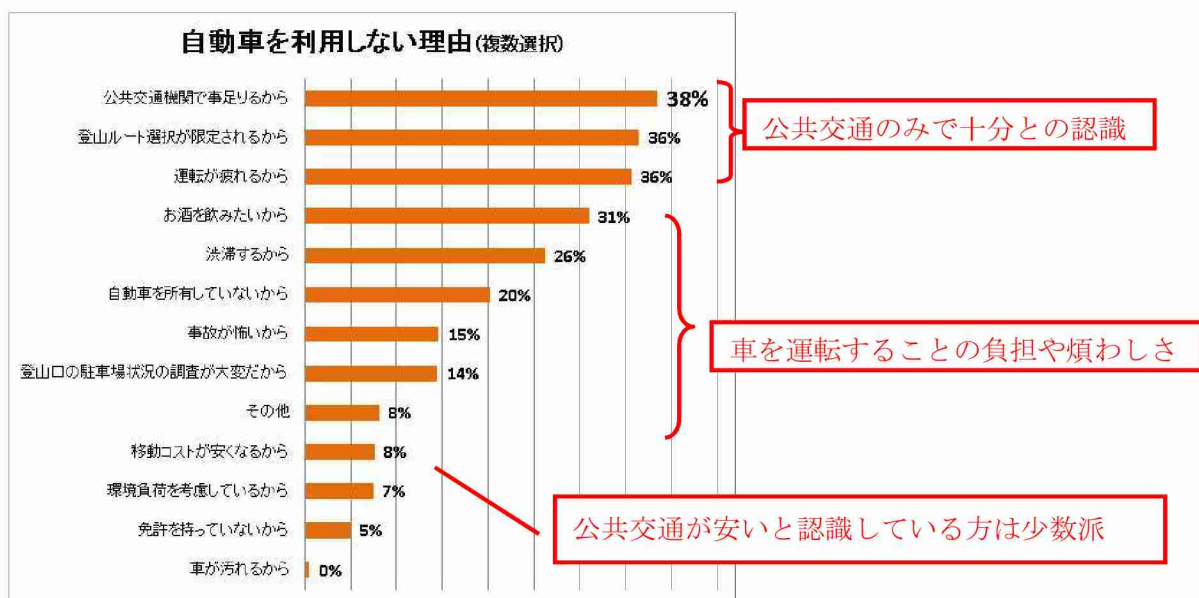
「最も」という条件付き質問のため、自家用車での登山が多い結果となった。しかし、電車+バスなど、公共交通の利用も見受けられ、登山の条件によっては、公共交通が選択される可能性はあると思われる。





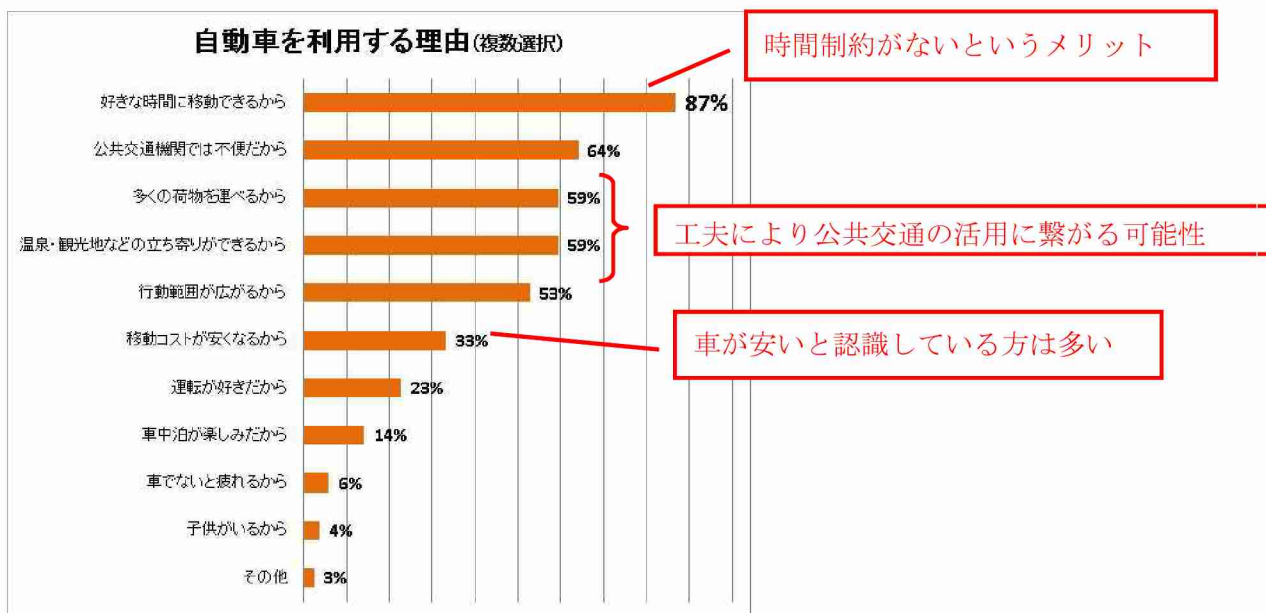
⑧ 登山に自家用車を利用しない（公共交通を利用する）理由（複数回答）

複数回答のため様々な理由が出ているが、上位2つの理由からは、公共交通が整備されている、もしくは縦走等しない登山の場合は、公共交通が利用できる傾向になる。また、車を運転することの負担や煩わしさを挙げた回答も多いことから、特に関西方面から四国地方のような中距離の場合、自家用車から公共交通利用へのシフトがあると考えられる。一方、移動コストが安くなることを理由に自動車を利用しないと回答した人は8%と少ないことから、公共交通＝高いとの認識があるように思われる。



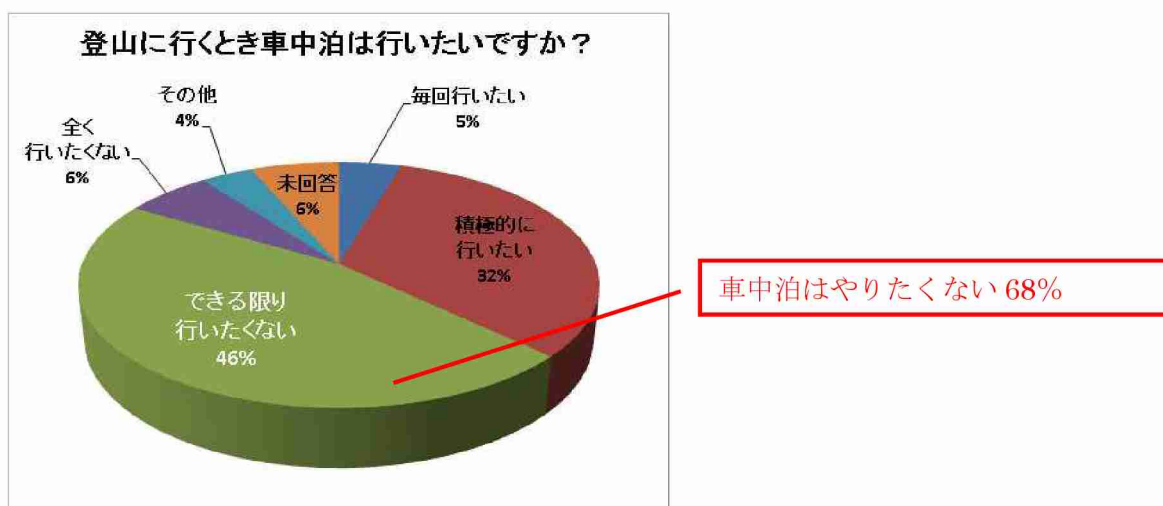
⑨ 登山に自家用車を利用する（公共交通を利用しない）理由（複数回答）

自家用車を使用することのメリットは「時間を気にせず利用できること」であるが、「移動コストが安い」との回答も約3割あることから、自家用車＝安いとの認識が多いことが分かる。ただし、関西方面から四国地方への登山の場合、高速代やガソリン代のことも考慮すれば、フェリー等の公共交通を利用した方が安くなる可能性がある。また、「多くの荷物を運べるから」「温泉・観光地など立ち寄りができるから」などの回答があることから、公共交通等の活用や受入環境整備の解決策につながると思われる。



⑩ 車中泊の登山は行いたいのか

「車中泊」においては、回答者の2/3程度が積極的にはやりたくないとの声が多い。このことから、登山の行き帰りにおいて、長距離運転を行っている可能性もあることから、その理由からの公共交通への転移も考えられる。



(2) 参考資料2

名称 石鎚山新観光ルートモニターツアーアンケート調査報告書

※抜粋

出典 西条市商工会議所 平成25年度実施

方法 モニターツアー後、アンケートを実施

人数 N=42

### 1. 調査目的

「石鎚山」ブランドを活用した「山ガール・山好きシニア」「一般観光客」向けの新たな商品及びサービスとして開発した「石鎚山新観光ルート」の実用性や事業性の検証を目的としたモニターツアーにおいて消費者ニーズ、満足度および改善点等についてのアンケート調査分析を行った。

### 2. 調査方法

- (1) 調査対象 関西圏及び山陽圏在住のモニターツアー参加者
- (2) 調査時期 関西圏：平成 25 年 11 月 22 日（金）～24 日（日）  
山陽圏：平成 25 年 11 月 24 日（日）
- (3) 対象者数 関西圏・山陽圏各 21 名
- (4) 調査方法 モニターツアー終了後、アンケートを実施・回収

### 3. 報告書中の表記について

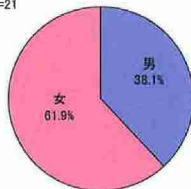
- (1) 回答率は各設問の無回答を含む回答者総数（副設問では該当する回答者数）に対する百分率（%）で表している。回答者総数はNと表示。
- (2) 集計は、小数点以下第2位を四捨五入している。従って、数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- (3) 複数回答の設問については、回答比率の合計が 100%を超えることがある。

### 4. アンケート結果及び分析

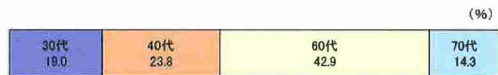
#### 【回答者属性】

##### 関西圏 性別

N=21



##### 年齢 N=21



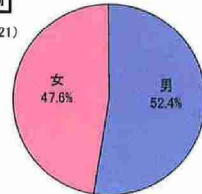
##### 職業 N=21



##### 山陽圏

性別

(N=21)



##### 年齢 (N=21)



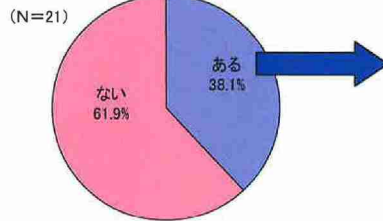
##### 職業 (N=21)



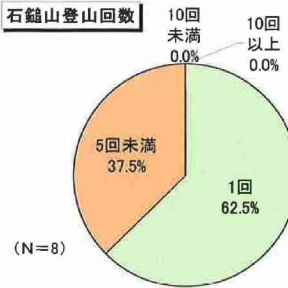
Q 5. 石鎚山に登ったことはありますか？

関西圏

石鎚山の登山経験



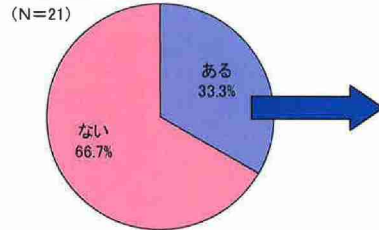
石鎚山登山回数



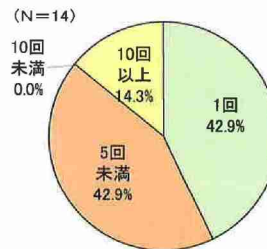
石鎚山に登ったことが「ある」人は3割強で、回数は「1回」(62.5%)が半数以上。  
⇒リピーターになる可能性あり。

山陽圏

石鎚山の登山経験



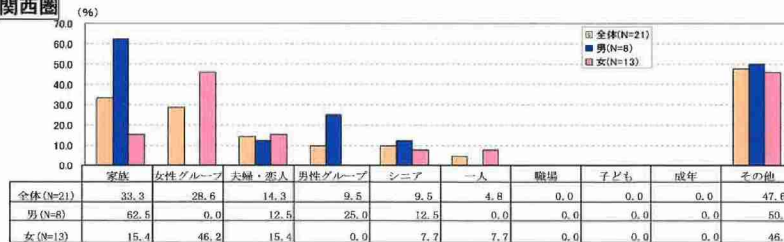
石鎚山登山回数



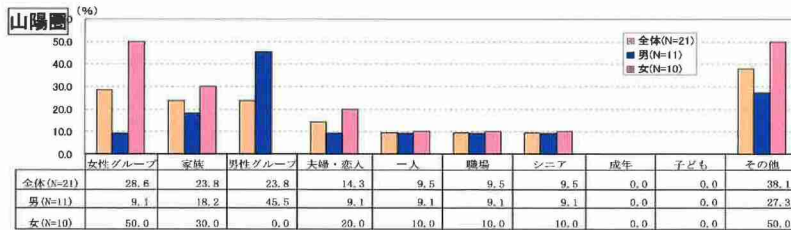
石鎚山に登ったことが「ある」人は約3割で、回数は1~5回未満が大半を占めている。

Q 6. 石鎚山へ行くとしたら？ (複数回答)

関西圏

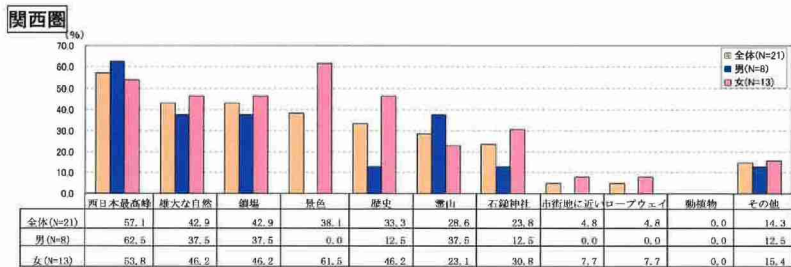


男性は「家族」(62.5%)、女性は「女性グループ」(46.2%)が最も多い。「その他」としては「山仲間」(7名)。⇒家族や女性グループが参加しやすいツアー商品開発。



男性は「男性グループ」(45.5%)、女性は「女性グループ」(50.0%)が最多。  
 ⇒男女共に参加しやすいツアー商品開発。

**Q7. 石鎚山の魅力は何だと思いますか？(複数回答)**



全体では「西日本最高峰」(57.1%)がトップ。  
 ⇒今後も「西日本最高峰」を前面に打ち出し、県外へもアピール。

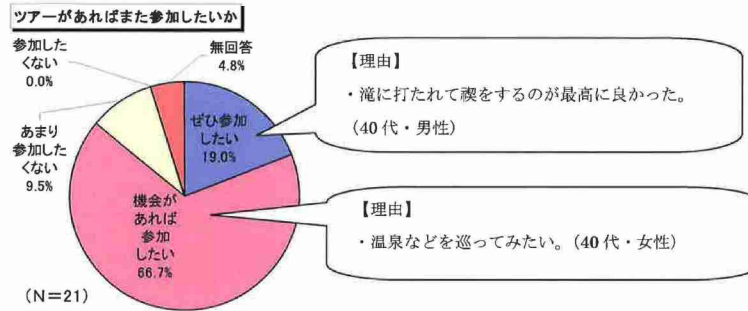
**※ご意見**  
 ツアーとしては難しいですが、石鎚山は西日本では厳しい雪山を体験できる数少ない山の一つですので、そちらもアピールしてはいかがでしょうか。(40代・男性)



全体では「雄大な自然」(66.7%)が最多。次いで「西日本最高峰」(61.9%)、「景色」(38.1%)と続いている。女性では「石鎚神社」(70.0%)や「霊山」(50.0%)など神聖さも魅力に感じている人が多い。⇒「雄大な自然」と「西日本最高峰」、「霊山」をアピール。

Q11. 登山+石鎚山での体験+西条市内観光ツアーがあればまた参加したいと思いますか？

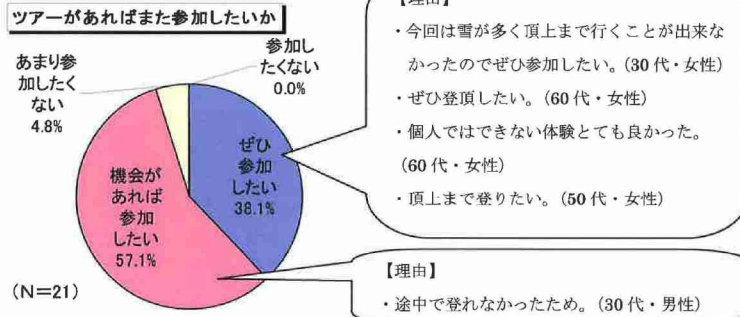
関西圏



「ぜひ参加したい」(19.0%)と「機会があれば参加したい」(66.7%)を合わせると85.7%と、多くの人が参加したいと考えている。

上記質問(Q10. 体験内容(ツアー)を知人に薦めたいか)からも、今回のツアーが好評だった事がうかがえる。

山陽圏

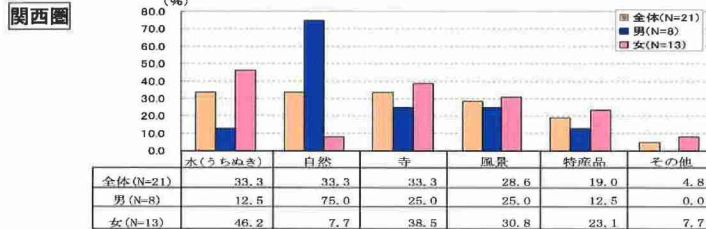


「ぜひ参加したい」(38.1%)と「機会があれば参加したい」(57.1%)を合わせると、9割以上。今回頂上まで行けなかったため、次回は山頂まで行くことを希望している人が多い。

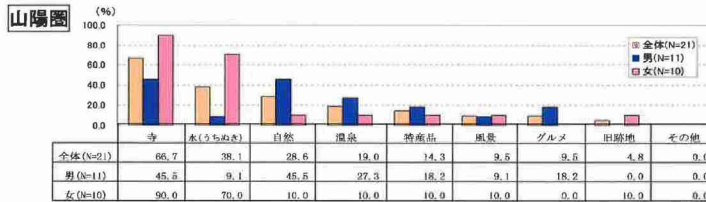
⇒次回参加者やリピーターの取り込みが重要。

⇒今回の参加者に今後のツアー商品に関する情報をダイレクトメールなどで送り、知人に勧めてもらい、または知人を誘って参加してもらうなど。

Q13. 西条市に滞在中に関心を惹かれたものはありますか？（複数回答）

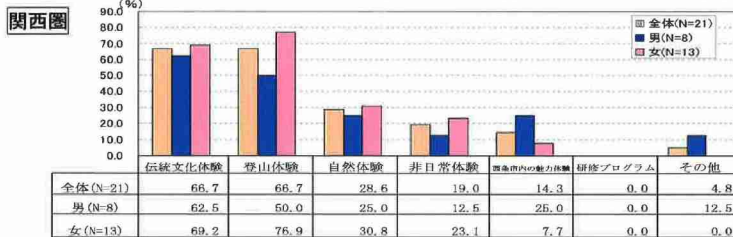


「水」や「自然」に関心を惹かれている人が多い。⇒水や自然を前面にアピール。

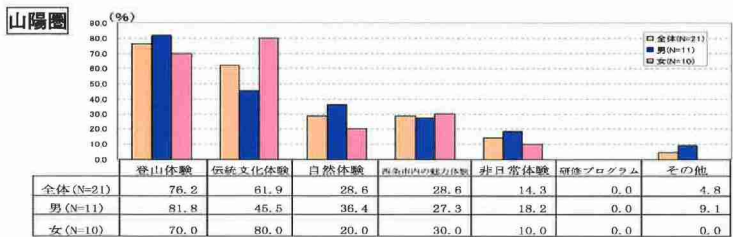


女性では「寺」(90.0%)が圧倒的に多い。次いで、「水(うちぬき)」(70.0%)。⇒寺巡りなど女性をターゲットとしたツアー商品の開発。

Q14. どのような目的でこのツアーをピーアールすると良いと思いますか？（複数回答）



男女共に「伝統文化体験」、「登山体験」が多い。⇒「伝統+登山」体験を前面にアピール。



男女共に「伝統文化体験」、「登山体験」が多い。⇒「伝統+登山」体験を前面にアピール。



### (3) 想定される対象地域の現状と課題

#### **【対象地域の現状と課題】**

##### **①登山に関する公共交通の利用促進について**

アンケート等から、登山者は時間的な自由さや、アクセス面の良さから登山の行き帰りに車を使用している。しかしながら、長距離運転の煩雑さや、車中泊の回避行動など、車を避ける要因も現れており、車以外の交通モードを使用した登山も条件によっては十分に想定できる。また、当該地域では公共交通同士の連携不足も散見されることから、1枚のきっぷで複数事業者を使用できるフリーパス造成など検討し、実現できれば、公共交通利用の促進・底上げとなる。

##### **②登山+αの周遊観光**

現在の傾向として、登山者は山登りのみに特化しがちであるが、魅力的な観光地（施設）があれば立ち寄りたいとの声も上がっている。ついては、登山者が立ち寄りやすい施設作りや営業

時間設定をすることにより、新たな周遊観光における需要開拓も期待できる。

##### **③魅力あるツアーコース作成**

参考資料2は平成25年に実施されたモニターツアーのアンケートであるが、滝に打たれる体験など、そこでしかできないアクティビティを盛り込むと好評な結果となった。ここから、団体・個人両側面において、魅力あるコース作りが、より多くの観光客（登山者）に石鎚山系にお越し頂く鍵となる。

#### **1-4. 事業の実施体制及び方法**

本事業においては、西条市や地域の観光関係者にヒアリングを行った上で、有識者（旅行事業者・交通事業者等）からなる「観光まちづくりアドバイザー会議」を2回実施し、石鎚山系周辺自治体の観光資源を活用した観光振興における様々な課題に対して、広域連携による滞在型観光の促進、観光振興に係る地域内外のネットワークの仕組みづくり、人材づくりや情報発信などのアドバイスや提案を行った。

観光まちづくりアドバイザー会議委員名簿（順不同・敬称略）

|    | 氏 名   | 所属              | 役職      |
|----|-------|-----------------|---------|
| 座長 | 真鍋 省二 | 四国ツーリズム創造機構     | 事業推進本部長 |
| 委員 | 井口 梓  | 愛媛大学社会共創学部      | 准教授     |
| 委員 | 津上 秀幸 | 株式会社JTBサン&サン西日本 | マネージャー  |
| 委員 | 梶 孝彰  | 株式会社パステルツアー     | 代表取締役社長 |
| 委員 | 沖本 浩一 | 株式会社トラベルギャラリー   | 課長      |
| 委員 | 堤 俊哉  | 四国運輸局           | 観光部長    |

観光まちづくりアドバイザー会議実施状況

|     | 実施日・場所  | 実施内容  |
|-----|---|---|
| 第1回 | 平成28年<br>10月26～27日（水～木）<br>（会議）<br>西条市役所<br>本館5階502会議室<br>（視察）<br>愛媛県西条市、久万高原町<br>高知県の町 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状の取組み、課題等、委員との意見交換</li> <li>・ 現地視察の実施<br/>（石鎚神社、アサヒビール園、木の香温泉、瓶ヶ森、土小屋、面河溪など）</li> </ul> |
| 第2回 | 平成29年<br>2月7日（火）<br>西条市役所<br>本館5階502会議室   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視察報告</li> <li>・ 委員との意見交換</li> <li>・ 石鎚山系周辺自治体（西条市）によるプレ<br/>ゼンテーション</li> </ul>           |



## 2. 観光まちづくりアドバイザー会議の実施

### 2-1. 第1回観光まちづくりアドバイザー会議

実施日時：平成28年10月26～27日（水・木）

（1日目視察） 12：30～15：00

（会議） 15：30～17：30

（2日目視察） 8：30～17：00

開催場所：西条市役所 本館5階502会議室

実施概要：

まず、愛媛県西条市に位置する四国鉄道文化館、石鎚神社、歓喜庵、ときめき水都市本店の視察を行った。その後、西条市役所にて、第1回観光まちづくりアドバイザー会議を行った。会議では石鎚観光の白石社長が石鎚山系をめぐる現状・課題などに関してプレゼンテーションを実施、地域の観光関係者からプレゼンテーションに関する感想や質疑応答を行うと共に、意見交換を行った。また、事務局より、団体登山者向けモデルルート提案、個人登山者向けモデルルート提案を行い、意見交換を行った。

#### （1）第1回観光まちづくりアドバイザー会議1日目スケジュール・実施風景

| 日付  | 時間    | 内容                 |
|-----|-------|--------------------|
| 1日目 | 12：15 | 伊予西条駅集合            |
|     | 12：30 | 四国鉄道文化館視察          |
|     | 13：30 | 石鎚神社視察             |
|     | 14：05 | 歓喜庵視察              |
|     | 14：55 | ときめき水都市本店視察        |
|     | 15：30 | 第1回観光まちづくりアドバイザー会議 |
|     | 18：15 | アサヒビール園 視察・夕食      |
|     | 21：10 | 木の香温泉見学・宿泊         |



(2) 石鎚観光によるプレゼンテーション（抜粋）

発表者：株式会社石鎚観光 代表取締役社長 白石文高

テーマ：石鎚山系の魅力について

石鎚観光発表プレゼン資料

観光まちづくり  
アドバイザー会議



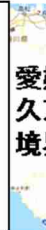
石鎚山系エコツアーを中心とした魅力と課題

株式会社石鎚観光 代表取締役 白石文高  
平成28年 10月 26日

1. 石鎚山の魅力



NO IMAGE



愛媛県西条市と  
久万高原町の  
境界に位置する

石鎚山は、約1,300年前に役小角が  
開山した修験道の霊山

2. 石鎚山の魅力



- ・日本百名山
- ・日本七霊山
- ・日本百景
- ・西日本最高峰  
1,982m
- ・全国でも珍しい  
鎖場



3. 石鎚山の魅力



石鎚山の四季



春 アケボノツツジ、シロドウダン  
ヤマシャクヤク等の花々が咲きます。

4. 石鎚山の魅力



石鎚山の四季

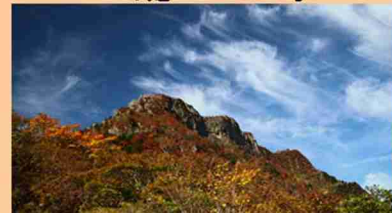


夏 下界との温度差は5度から10度。夏山詣で、  
森林浴、避暑の登山客で賑わいます。

5. 石鎚山の魅力



石鎚山の四季



秋 10月上旬に山頂の見頃を迎え  
徐々に紅葉が下界へと降りて行きます。

## 6. 石鎚山の魅力



### 石鎚山の四季



**冬** 氷点下の「静」なる時を迎え南国四国にしては若干長い白と黒の水墨画の季節の到来です。

## 7. 石鎚山の魅力



### 石鎚山の主な登山ルート

- ・石鎚登山ロープウェイを使って中宮成誠社から登る「成就社(表参道)ルート」
- ・石鎚スカイラインを使って土小屋達拝殿から登る「土小屋ルート」
- ・面河溪谷から登る「面河ルート」

NO IMAGE

## 8. 石鎚山の魅力



### 石鎚スカイライン

石鎚山の南側にあり、面河溪入り口の関門から、土小屋達拝殿のある土小屋まで一気に駆け上がるドライブルート

【石鎚スカイライン通行可能時間】

4/ 1～ 4/28 7:00～18:00  
 4/29～ 5/31 7:00～19:00  
 6/ 1～ 6/30 7:00～20:00  
 7/ 1～ 7/10 4:00～20:00  
 (お山開き期間)  
 7/11～ 8/31 7:00～20:00  
 9/ 1～11/30 7:00～18:00

【冬季全面通行止め】 12/1～3/31



## 9. 石鎚山の魅力



### 石鎚登山ロープウェイ



西条市から石鎚山への登山ルートにあり標高455mの下谷駅から標高1300mへ約8分の空の旅切り立った山肌を眺めながら石鎚山の中腹を目指して進んで行くロープウェイ。 通常運行時間8:40～17:00

## 10. 石鎚山の魅力



### 瓶ヶ森林道(愛称:UFOライン)



晴れた日には石鎚山系、太平洋まで見渡すことができるダイナミックな景色が続きます。

## 11. 石鎚山の魅力



### 行場として

- ・試しの鎖
- ・一の鎖
- ・二の鎖
- ・三の鎖



## 13. 石鎚山の魅力



石鎚神社四社

## 15. 石鎚山の魅力



### お山開き大祭



- ・7月1日から7月10日に斎行
- ・期間中の登拝者は全国各地より数万人

## 18. 石鎚山の魅力



### 石鎚山 スターナイトツアー

大人気商品！  
夜景・星空観察  
日帰リツアー

ロープウェイで  
一気に1,300mへ



## 20. 石鎚山の魅力



### 面河溪谷



四季折々に美しい清流面河川  
(仁淀川の源流)

## 1. エコツアー



愛媛県石鎚山系エコツーリズム推進協議会

### エコツアーとは？

- ・自然環境や歴史文化など、観光客が体験しながら学べる旅のことです。
- ・石鎚山系の自然や文化を保全・継承しながらこれらを活かした観光を推進し、地域社会の活性化を目指しています。

## 5. エコツアー



### 協議会関係団体が実施した エコツアーへの参加者数

H25年度 136名(ツアー実施団体数 3)  
H26年度 218名(ツアー実施団体数 4)  
H27年度 1,143名(ツアー実施団体数 6)

## 6. エコツアー



### ワンストップ窓口の強化

旅行者・各種団体・一般観光客等



【DMC】事務局(株)石鎚観光



営業、販売、手配、精算

問い合わせの窓口を一本化し各事業所が持つ  
コンテンツを円滑にお勧めできるシステム構築

## 1. 石鎚山の課題



### 国定公園利用者数

昭和52年 153万人  
平成15年 71万人  
平成25年 55万人

ピーク時の3分の1に利用者数が減少

## 2. 石鎚山の課題



行ってみたい。けど  
どうしていいかわからない  
安全に登れる案内人がほしい



案内を望むお客様の数に対してガイド  
が不足しているのではないか？

## 3. 石鎚山の課題



### 瓶ヶ森林道の整備

現在、町道の瓶ヶ森林道を県道又は国道に  
昇格できるようご尽力いただき、スカイライン  
の通行制限を撤廃することで、冬季には西  
日本では特に珍しい霧氷・樹氷のパノラマが  
見れる観光ルートとなり、外国人観光客にも  
人気が出ると考えております。





(3) 意見交換

| ○団体登山者向けモデルルート提案・意見交換 |  |
|-----------------------|--|
| 井上委員                  | <p>・フェリー利用者はU S J 目的の四国在住者が多く、関西方面から石鎚山登山目的のお客様は少ない。現在、出港前2時間と到着後2時間は船内でおくつろぎいただける時間を設けているので、急いで乗船・下船せずゆっくり船旅をお楽しみいただき大変好評を博している。個人旅行プランであれば、船内での夕食も提案可能。もちろん景色も楽しめる。また東予港からは連絡バスがあり、そこから伊予西条駅まで行き、乗り換えてロープウェイまで行くことは可能。</p>                               |
| 川田委員                  | <p>・中型より大きなバスで瓶ヶ森林道の走行は厳しい。マイクロバスがかろうじて可能だと案内している。団体ツアーとなると人数が限られてしまうので、1名あたりの単価が高くなる。</p>   |
| 伊藤委員<br>(ロープウェイ)      | <p>・東予港からロープウェイへの直行便はないため、あれば利便性が高まる。関西在住者を対象にしたモニターツアーを実施しており、福山を経由したアクセス事例もあり。特に滝行をプランに入れた際には女性に好評であった。やはり団体ツアーでは一人当たりの単価が課題で、正規料金では高い。</p>  |
| 伊藤委員<br>(JR)          | <p>・登山団体ツアーは荷物が多いためJRは利用しづらい。石鎚山の魅力は登山と景観だと思うのでそれらを情報発信していくべき。</p>   |
| 森委員                   | <p>・木の香温泉は施設そのものは小さいが、温泉や食事、宿泊の対応は可能。広島や岡山等瀬戸内側からのお客様が多いが、登山客の利用はまだ少ない。</p>  |
| 眞嶋委員                  | <p>・休暇村瀬戸内東予は、団体のお客様の対応が可能。登山されるお客様からは、朝食・昼食のお弁当の要望があるが対応できていない。施設内にコインランドリーを設置しており、登山客には便利な宿泊施設だと思うが、ロープウェイ駅まで1時間程度かかる立地のため利用者数は少ない。</p>  |
| 白石委員                  | <p>・通行可能な車種が何であるのか、はっきりさせておくべき。瓶ヶ森林道はマイクロバスまでと伝えている。また、石鎚観光の予約システムが弱いので、強化が必要であり、施設のリニューアルも必須。</p>   |
| 津上委員                  | <p>・JTBは国内の北海道から沖縄までを対象エリアとしているが、その中で「アクティビティ」や「山」をメインにしているのが、JTBサン&amp;サンという会社。最近ではキャニオニングやラフティング等のソフト系のアウトドアが人気。国内旅行市場は軒並み各エリアとも旅行者が減少傾向にあるが、その中で好調なエリアは外国人観光客が増加している地域である。国内旅行市場が先細りとなる中、外国人をターゲットにするのも必要では。事務局から提案のあったモデルコース案は、販売価格、ターゲットを明確にし、売れる</p> |

|      |  |
|------|--|
| 梶委員  | <p>商品・売りたい商品にすべき。かつてJTBサン&amp;サンでも登山ツアーのパンフレットを作っていたが現在は無い。登山ツアー単価が4～5万と高額設定になり、どうしても送客が見込めない。</p> <p>・パステルツアーは山専門の旅行会社。四国の山の魅力は縦走できるということである。登山者の気持ちになって考えると、石鎚山だけなら1回登れば満足。しかし、山頂から周辺の縦走可能な山々を見ると、縦走意欲を掻き立てられまた来ようと思う。ただしその情報発信が弱い。モデルコース案はほぼ分かる内容であるが、旅行業者としてはお客様の求めるニーズを形にしていきたい。なお、最近の登山客の傾向として装備をキチンとしていない人が多い。鎖場をしっかりと見ておかないと怖いし天狗岳が危険なことも知らずに行く方も多い。看板やスチール製の手すりが必要。また、花を景色としたアケボノツツジも魅力だと思うので、是非売り出してはどうか。現地の正確な道路情報が是非ほしい。</p> |
| 沖本委員 | <p>・たくさん来て欲しいという地元の気持ちは分かるが、5月や秋の季節の良い時期が石鎚山登山のピークであり、この時期に団体ツアーを組むと山頂が大変混雑するため設定が困難でツアー参加者はなかなか天狗岳に行けない。天狗岳へのアクセスは事故が発生する可能性が高いので整備が必要。また、アウトドアサークルのように個人登山者も多い。個人登山者向けにもっと面白いルートを提案すべき。</p>  |
| 堤委員  | <p>・ターゲットを意識すべき。先日西条祭りに行った時にも水の綺麗さに驚いた。これは他の地域の人には知らない。石鎚山だけでなく西条やその周辺地域全体に目を向けるべき。</p>  |
| 井口委員 | <p>・ターゲット設定が重要。モデルルート案はビギナーや中高年向けにはかなりタイトなツアーだと思う。ツアー造成にあたっては休憩とアクティブのメリハリが必要。また、中高年ターゲットだと詳しく話せる知識（ガイド）も必要。</p>   |
| 真鍋委員 | <p>・登山ルート上での危険箇所については、旅行会社パンフレットに小さくでも良いので、掲載することが重要。</p>  |

| ○ 個人登山者向けモデルルート提案・意見交換 |  |
|------------------------|--|
| 井上委員                   | ・オレンジフェリーの設備は整っているが、フェリーとバスのセット券については、大阪南港の窓口で販売等の対応をすることとなりオペレーション等の課題もあり、現時点では実現が厳しい。なお、船が1日おきに変わるため、往復する場合レストランの食事内容が変わってしまう。   |
| 川田委員                   | ・瀬戸内バスの伊予西条駅からロープウェイ行きの路線バス（西之川線）の沿線は過疎地域で便数が少ない（下り4本、上り5本）。沿線人口も100名を切るエリアで増便は厳しい。今回の事業内容を上層部に説明すれば、関西と西条方面を結ぶ自社の高速バスがあるので、そこのセット券を作るように言われると思う。  |
| 伊藤委員<br>(ロープウェイ)       | ・伊予西条駅とロープウェイ前を結ぶ路線バスについて、2便目のバスで来た人は、よほどの健脚でなければ日帰りは厳しい。外国人の登山客も増加しているので、季節便を運行するのはどうか。   |
| 真鍋座長                   | ・土小屋と西条市内を結ぶバスはあるのか。   |
| 川田委員                   | ・直通便は無い。土小屋から久万高原町まで伊予鉄南予バス、久万高原町でジェイアール四国バスに乗り換えて松山駅まで行くことはできる。   |
| 真鍋座長                   | ・西之川線について国から補助を受けているのか。  |
| 川田委員                   | ・西条市から50%の補助を受けているが、走るほど赤字になる。   |
| 梶委員                    | ・土日だけ瓶ヶ森林道にバスを運行するのはどうか。登山ピーク時期に合わせて増便するのがもっと早い。松山市内から石鎚山頂ルートを巡るツアーを造成しているが、当初売れないと言われていた。個人で行く場合には、マイカーの回送サービスがあると縦走が可能となり便利。北海道や北アルプスでは実施している。また、20～30代の登山者は乗り合わせて来る人が圧倒的に多い。周辺観光地への関心も高く、道後温泉も魅力的な素材。   |
| 真鍋座長                   | ・増加傾向にある台湾、香港のお客様は個人でインターネットを使って情報収集して来るので、情報整理しておく必要がある。  |
| 井口委員                   | ・個人で日帰り登山するためには、行きは伊予西条駅7:47発の路線バスに乗車し、帰りはロープウェイ17:00発に乗車しないと路線バスの最終便に間に合わない。もう少し温泉でゆっくりする時間があるほうが良いと思う。また、オレンジフェリーは自転車を乗せてくるお客様もいる。行程案を見ると、登山だけでなく、自転車で周遊できる施設に行けるルートもある。様々なプランを選択できる情報センターがあると有難い。また、自転車のお客様はアジア圏の方が多いと聞くので、そういった方をしまなみ海道から引っ張ってくる可能性もあるのでは。そして、伊予西条駅を起点に周遊して翌日登山、 |

|      |  |
|------|--|
| 真鍋座長 | <p>もしくは登山して翌日周遊の行程案がある。サイクリスト等も含め、今後議論していくほうが良いと思う。</p> <p>・よく西条の水が美味しいと言うが、実際にアサヒビール四国工場でも通常3回濾過しなければならないところ四国工場は2回で良いほど。四国のビールは東京より美味しいとよく四国ツーリズム創造機構の会長も言っている。登山に来る方、一般観光客等皆さんに色々なところを見ていただきたい。また、ワンストップ窓口は旅行会社や旅行者にとっても有難いこと。四国では高知県の幡多広域や愛媛県の大洲などが事例として挙げられる。かつて大洲は内子より観光客が少なかったが、河野さんというキーパーソンが地域を巻き込みながら取り組み、今では大洲のほうが多くなっているのではないかと。石鎚山系もワンストップ窓口化を早急に進めたほうが良いと思う。</p> |
|------|--|

#### (4) 視察を行った各施設への委員所感・提案

##### ①四国鉄道文化館



##### (意見)

- ・ 駅に隣接しているため便利も良く、列車の待ち時間等を有効活用し、ぜひ見学してほしい。
- ・ 四国における鉄道の情報発信基地として、積極的にパンフレットなどに、掲出してほしい。

##### (提案)

- ・ JR移動の際、地元の食事などをセットにした途中下車プランを作成し集客する。
- ・ シュミレータをうまく活用すると施設の目玉としてPRできるのではないかと。
- ・ 予約制によるガイドツアー等を設定すれば、鉄道好き以外にも楽しめるのではないかと。
- ・ 「鉄道の町」西条をPRする施設として、0系新幹線を常設している理由や十河国鉄総裁と西条市との関わりなどを説明するガイドツアーがあるとよいのではないかと。
- ・ ガラスケース内などの展示替えができれば、リピータの動機が高まる。写真展も良いが、鉄道や十河氏にまつわる資料をぜひ拝見したい。収集資料を取り換えながら、新しい企画展示を提案してはどうか。

## ②石鎚神社



### (意見)

- ・ パワースポットとして売り出しても良いと思う。
- ・ ガイド力が極めて高いため、インバウンド観光も視野にいれつつ、日本のオーセンティックな神社建築や儀礼を伝える場所として活用したい。
- ・ 旧遍路道や前神寺など周辺の歴史散策ルートの一部として活用したい。

### (提案)

- ・ 四社を巡り特典がもらえるようなご朱印集め（スタンプラリーなど）を企画。
- ・ 写典（写経）体験ができることをPRしてみてもどうか。
- ・ 語り部やガイドツアーを催行。例えば、縁起を語っていたたくようなツアーを催行。
- ・ 女性をターゲットにした目玉（ご神水など）を作成し、PRするのがよい。

## ③歎喜庵



### (意見)

- ・ 露天風呂からの景色が良かったので、早期復旧を望む。
- ・ 雰囲気はよいが、団体ツアーとして立ち寄り可能な施設かどうか疑問。
- ・ 宿泊が雑魚寝では、ツアー造成が難しいため、立ち寄り入浴・食事で利用できる。
- ・ 温泉の泉質が魅力的なので、登山後の温泉資源としてまとめて情報発信したい

(提案)

- ・ 宿泊のキャパシティが小さく、マイカーでないと不便だが、アクセス的には中心部から遠くなく、四国にはあまりない泉質の温泉なので、ロープウェイ乗場の麓にある京屋旅館本館とあわせてPRしてはどうか。
- ・ 建物、立地条件、温泉いずれも高い評価である。一方で、静かなたたずまい、薄明り、整然とした空間もまたこの施設の良さでもあるので、お客様が大勢で雑魚寝するような状況は、再検討（ターゲットをすみわけの工夫）も必要。
- ・ 登山観光の中で、ビギナーにぜひ泊まっていただき、リピーターと交流しつつ、登山のノウハウを聞くことができる・学べるような空間としてぜひ活用をしたい。できればその役として、オーナーがとても魅力的な方なので、「山小屋」のような雰囲気をもつ古民家として活用したい。

④ときめき水都市



(意見)

- ・ ここだけにしかない特産品がなかったため、インパクトに欠ける。
- ・ ツアーで利用するならば、営業時間をもう少し長くし、商品を豊富にそろえる必要がある。
- ・ 米を使用したパンはよかったと思う。
- ・ 地場産品が何か、どこに配置されているか、もっと分かりやすければ活用しやすい。

(提案)

- ・ 全国的に珍しい「うちぬき」を使った商品を新たに開発してみてもどうか。
- ・ 立ち寄ったら何かちょっとしたプレゼントを渡すことにより、お得感がでる。
- ・ 西条市内を流れる川（水路）はうちぬきから生まれていることをもっとPRするべき。
- ・ 学生を引率する際、「うちぬきの水」を活用した産品や商品がどこにあるか聞かれることが多いため、その点が伝わるようなディスプレイ（商品用のカードがあるので、そこにワンポイント入れるなど）を工夫していただくと観光客も活用しやすい。

## ⑤アサヒビール園



### (意見)

- ・ビール園は全国にある施設のため、現状のままでは、団体ツアー素材としては難しい。
- ・登山や観光、スポーツで来たお客様が、ビジネスホテルに泊まる時の夕食利用がベスト。

個人や団体、日帰りの家族旅行でも利用できる。

### (提案)

- ・愛媛の名物料理をそろえたり、提供する食材などの説明をきちんと行えば魅力が上がる。
- ・メニューはほぼ固定されているので、うちぬきで育った野菜を取り入れるなど、西条らしさを出すことが望まれる。
- ・休日の工場見学は、ラインが動いていないこともあり、試飲がメインになっているが、「マッサン」放送時にはタイアップした情報発信も多く、週末に出かけても（若い世代にとっても）魅力的な観光資源であった。その際、竹鶴の歴史性に絞った発信は、西条の日本酒（4社）との物語性をつなげやすく、連動した観光活用の可能性を感じた。

## ⑥木の香温泉





### (意見)

- ・宿泊設備として、登山・観光・家族利用ができ、特に大浴場や露天風呂は良いと思う。
- ・宿泊施設としてはバストイレが共用、テレビなしの客室なので、特殊な旅行しか利用し

|   |
|---|
| <p>づらい。立ち寄り入浴と食事場所で利用ができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 値段はリーズナブルだが、スタッフが少なく団体への対応ができるか疑問を感じる。</li> </ul>   |
| <p>(提案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 立地条件や観光動線、利用客層を考慮すると、ビジターへの情報発信拠点として活用できる可能性がある。</li> <li>・ 朝食メニューに地元らしさがなかった。特産品のキジやアメゴの使用が望ましい。</li> <li>・ UFOラインの活用とあわせて石鎚山方面からの集客につなげることができるのでは</li> </ul> |

(2) 2日目スケジュール

| 日付  | 時間        | 内容         |
|-----|-----------|------------|
| 2日目 | 8 : 3 0   | 木の香温泉出発    |
|     | 1 0 : 3 0 | 土小屋視察      |
|     | 1 1 : 4 0 | 面河溪視察      |
|     | 1 2 : 5 0 | 天空の郷さんさん視察 |
|     | 1 5 : 0 0 | 休暇村瀬戸内東予視察 |
|     | 1 5 : 4 5 | 周ちゃん広場視察   |
|     | 1 6 : 3 0 | オレンジフェリー視察 |

| ⑦土小屋  |  |
|---|--|
|    |  |
| <p>(意見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設の老朽化が目立った。</li> <li>・ 入浴できる施設があればよい。</li> </ul>  |  |
| <p>(提案)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状、公共交通機関では、松山・久万高原方面から季節運行の路線バスが運行されているが、西条方面に向かうバス等があれば利便性が高くなる。</li> <li>・ スカイラインの終点に位置する立地条件を活かし、石鎚山に関する自然・人文両方のイ</li> </ul> |  |



ンフォメーション機能を強化したい。地形図のベースマップを大きく拡大してホワイトボードで展示できるようなら、最新情報を常に更新できる場所として活用。

## ⑧面河溪



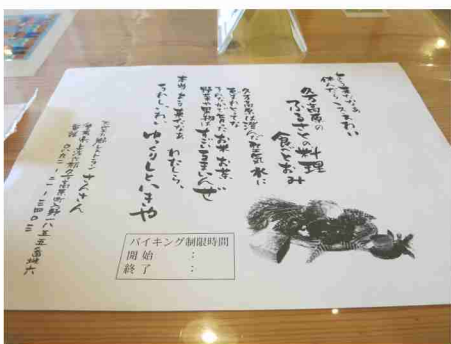
### (意見)

- ・ 溪谷美が美しいため、紅葉シーズンには団体バスツアーの行程にも入っている。
- ・ 面河溪の紅葉の時期と石鎚登山のピークは季節があわない問題をどうするか。

### (提案)

- ・ シーズン中は食事とセットで予約制のガイドがあっても良いと思う。
- ・ 夏の個人をターゲットとして、穴場の水遊び場所として活用することが考えられる。
- ・ 面河のミュージアムがとても情報発信拠点として優れているので（インタープリテーションとしての学芸員も）自然観光のみならず、博物館を必ず訪れるような工夫をぜひ考えた方が良い。

## ⑨天空の郷さんさん



### (意見)

- ・ レストランやパン工房等、色々な楽しめる施設があり必ず立ち寄る場所であると思う。
- ・ 土休日において団体の予約はできないのか？改善を望む。

**(提案)**

- ・平日のみ団体予約が可能な平日の立ち寄り施設として旅行会社へPRすべき。
- ・最新の施設であり、若い世代をターゲットとしても面河観光に活用できる。大寶寺の遍路の動線としても活用しやすい。インフォメーション拠点としては、閉まっていることもあるので、人がいなくても情報発信できる工夫ができれば良いと思う。

**⑩休暇村瀬戸内東予**



**(意見)**

- ・送迎バスもあるので、駅からのアクセスも問題ないと思われる。
- ・登山目的の旅行では立地的に難しいが、夏のファミリー旅行では大量送客が可能。
- ・規模的にも団体にも対応可能であるため旅の中心にもすることができる。
- ・他施設と比較して宿泊単価が高いと思われるが、中高年にターゲットを絞れば登山と温泉、周辺観光を組み合わせたツアーが造成できる。

**(提案)**

- ・客室の事前枠でのブロックができるかどうか課題。
- ・施設前の展望、エントランスの眺望、露天風呂からの眺望を活かして、「瀬戸内海」のみならず「燧灘」のテーマの中で活用したい（瀬戸内海沿いの宿泊施設として県外観光客を誘客しつつも、地域性を発信いただけると、東予エリアの歴史観光や地場産業見学などとより連携しやすい。

**⑪周ちゃん広場**



**(意見)**

- ・アクセスはよいもの、ツアー行程上、時間の関係で、組み込むには難しいと感じる。
- ・施設も大きくて品数も多いが、これといった特産品がないように感じる。

**(提案)**

- ・PRがなされているのか分からなかったので、オリジナル商品をもっとPRすべき。
- ・周ちゃん広場と水都市は、対外的に「西条の農産物」を取り扱う場所として情報発信しているが、一步踏み込んで西条・小松、丹原・東予のそれぞれに強い地場産を扱っていることを情報発信していただければ、周辺の周遊観光に結び付けて活かしやすい。
- ・喫茶エリアが十分に活用できていない（情報発信も）若い大学生のようなターゲットは、広場内ではほとんど買い物しなかった（荷物になるため）が、その多くが喫茶エリアのスイーツを購入しており、情報発信もイートインのスペースももう少し魅力的になると、可能性が広がる。

**⑫東予港（オレンジフェリー）**



**(意見)**

- ・フェリーが早朝、夜間の発着ダイヤなので、到着してからの時間を有効活用できる。
- ・個人、団体とも非常に便利であり、大型の船なのでゆったりした船旅が出来る。

**(提案)**

- ・フェリーと他の公共交通機関をセットにしたプランを設定してほしい。
- ・船内での土産物や農産物の販売により、品揃えが充実するのではないか。

- ・モビリティセンターを整備し、西条および周辺地域の観光に関する交通動線（連絡バスを含む）を紹介できればよい。無人であっても良いので、簡易なインフォメーション機能があれば、その後の市街地観光の活用の可能性が広がる。
- ・（長距離移動可能な車種を配置した）レンタサイクルスポットがあれば良い。いくつかモデルコースがあるので、サイクリストに合わせて紹介したい。そのためにも、サイクルスタンドと空気入れのみが配置されているサイクルスポット周辺が魅力的な場所になるとよい。

## 2-2. 第2回観光まちづくりアドバイザー会議

実施日時：平成29年2月7日（火）13:00～15:00

開催場所：西条市役所 本館5階502会議室

実施概要：会議では、委員より視察の感想と提案をいただき、第1回の会議で出した意見から大きく検討テーマを3つに絞り意見交換を行った。

### (1) スケジュール

| 時間    | 内容          |
|-------|-------------|
| 13:00 | 西条市役所にて会議開始 |
| 15:00 | 会議終了        |



会議風景

### (2) 受け入れ地域での取り組み

受け入れ地域での取り組みとして、代表し西条市より、受け入れ環境整備、取り組みについて紹介された。





|      |   |
|------|---|
|      | <p>気。また、大型バスは利益率が良いとは思いますが、小・中型の方がお客様満足度は高い。また、自分達が山歩きの添乗員もできることも強み。現在は夏に向けてのパンフレット作成中。</p>   |
| 沖本委員 | <p>・現在秋に向けてのパンフレットを制作中。今年も石鎚山ツアーは5.10月に組んでいる。夏は、東日本エリアに足が向くので、石鎚山ツアーは無い。仁淀川エリアへのツアー設定、モニターツアーの依頼がきており、来期実施する。旅行会社へ、サポート（補助金）があることを話せば食いつく。小・中型バスのほうが、当社も良いと思う。大型バス（40名）だと、ガイドも多く必要なので、20人×2回の方が、実施しやすい。また、西日本のガイドより東日本のガイドの方が人数も多くレベルが高い傾向にある。</p>  |
| 白石委員 | <p>・地元ガイドは多くいる。旅行会社は高い基準の日本山岳協会のメンバーが良いと言ってくる。もう少し、各地域の任意団体や登山愛好家によるガイドも認めていただけたらと思う。規定ではお客様10名につきガイド1名をつけないといけないことになっている。</p>  |
| 荒木委員 | <p>・自然の解説等のレベルを一定で揃える動きが、国の方で出ている。団体で、体調不良者発生や天候悪化の可能性もあり、安全面からはお客様は少ない方がガイドは良い。</p>  |
| 沖本委員 | <p>・独自の基準で、日本山岳ガイド協会の規定より緩くし何かあってからでは、危険。日本山岳ガイド協会を国家資格にしていきたいという動きもある。現在、山の難しさを表で分かりやすく表示しているが、県によってその基準が違うので統一すべき。</p>  |
| 真鍋座長 | <p>・登山に限らず旅行の安全への規定は年々厳しくなっている。海外旅行だと2,500万円、国内旅行であれば1,500万円の保険をかけるようになってきている。</p>  |
| 堤部長  | <p>・旅行業法になっているわけではないが、厳しくなっているのは事実。</p>   |
| 森委員  | <p>・最近、島根県から山のツアー客の宿泊があった。また、春と秋には香川のバス会社主催の「てくてく山あるき」では、香川発着の初心者向けツアーも数回に分けて来ており、お手伝いする。また、仁淀川流域のアクションプランの中に山岳観光の項目も入っており、山岳ガイド養成を検討中。</p> <p>・視察の際、客室にテレビがないことをご指摘いただいたが、あえて置いていなかった。しかし他のお客様からも、非常時などに外からの情報が欲しいとの声もあり、12月から、全室にテレビを設置した。～2/9まで館内改修中</p> <p>・冬の集客強化の取組みとして、いの町観光協会主体でスノーパークを作りイベントを実施する。県なども巻き込み情報発信をしていく。</p> |
| 眞嶋委員 | <p>・秋には名古屋や滋賀からの登山ツアーがあり、大体10～20名の団体が多い。ただし圧倒的に多いのは、マイカー利用の個人客で全体の約8割を占め</p>  |

|      |  |
|------|--|
| 真鍋座長 | <p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登山に特化した施設ではない為、早朝の食事やお弁当、ガイドの対応はできず、紹介をしている。コインランドリー等は館内にある。</li> <li>・旅行会社に商品にしてもらうことで、パンフレットに少なからず掲載される。その積み重ねが、誘客促進、地域にお金の落ちる仕組みづくりにつながる。四国ツーリズム創造機構では、四国全体のJR利用の商品を造成してくれているパンフレットについて一部補助金を出している。</li> </ul>  |
| 井上委員 | <p>○ 個人向け「商品造成」について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪からの乗用車を乗せたフェリー利用が増加している。動向は把握しきれていない。目的が何なのか、アンケート調査も実施したいがプライバシーの問題もあるので難しい。サイクリング利用も多い。</li> <li>・2018年には新造船就航のため、船内のコンセプトが大幅に変更される。乗船定数が約半数になり、プライベート空間を重視する。</li> </ul>  |
| 川田委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・港～JR伊予西条駅間の運行や、増便、季節便は現時点では厳しい。現状</li> </ul>   |
| 伊藤委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>運行+フェリーのセット券であれば考えられる。</li> </ul>   |
| 井口委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼマイカー利用の個人客が多い。まれに定期バスでの海外客もいる。アルペンルートの回送プランも参考になると思う。</li> <li>・ワンストップ窓口が必要だと改めて感じた。いよ観ネット（県）とは繋がっているが周辺地域とのつながりも大切に。にし阿波の落合集落のプランはスポットだけでなく、ストーリーでつなげていることが素晴らしい。</li> <li>・温泉施設を是非活用し、石鎚神社も上手くつなげていければ良いと思う。</li> <li>・団体客であれば回送も可能。個人だとなかなか難しい。県の補助をつけて、季節ごとでも実施し、継続につなげていただきたい。</li> </ul> |
| 真鍋座長 | <p>○ 今後の受入環境整備について</p>   |
| 井口委員 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・DMOや協議会発足など力強いお言葉をいただいた。</li> </ul>  |
| 堤委員  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジターセンターの必要性を検討すべき。どの施設がどのようなインフォメーションができるのかをまず整理し、客のニーズの多様性にあわせていく。</li> <li>・1市2町の連携はどういった体制で推進するのか、基盤づくりが重要。情報発信については割愛するが、発信の元になるサービスや商品はこういった物が必要なのか検討していくべき。観光に食や特産品は欠かせない。また、交通の面では、セット券があることにより、利用者に必ずそこにたどり着け</li> </ul>  |





### ⑤ 石鎚山系の「資源」を磨きあげよう！

自然

スポーツ

温泉

NO IMAGE

### ⑥【認知度向上施策】旅行会社パンフレットへの掲載！

#### 現状・課題

- ①まだまだ知名度が低い？
- ②どのマーケットにどう売ればいいの？
- ③どうすれば魅力ある商品ができるの？
- ④石鎚山系のことをどこに聞けばいいの？

「アウト」の旅行会社へ「イン」の観光客へ

【旅行会社パンフレット】



#### ①情報発信 ⇒ 分かりやすく、見やすく！

- ☆観光施設・地元レストラン・宿泊場所や距離、所要時間等を一括掲載したマップの作成
- ☆個人型商品への情報掲載
- ☆SNSの活用

#### ②ターゲット

- ⇒ 登山客・一般観光客のメリハリ
- ☆個人型商品:若い人・女性グループ・ファミリー
- ☆団体型商品:登山愛好家グループ

#### ③新しい切り口

- ⇒ 付加価値を付けた商品づくり！
- ☆観光施設入場料+温泉+食事がセットになった「トクトククーポン」の設定

#### ④受入態勢の整備

- ⇒ ワンストップサービス！
- ☆旅行会社や観光客に対する窓口の一本化
- ☆石鎚山系観光に関する協議会の設立

### 3. 観光まちづくりアドバイザー会議による提案

---

---

第1回、第2回観光まちづくりアドバイザー会議において地元事業者と専門委員との意見交換や現地視察を通じて、今後の石鎚山系周遊型ルート構築にむけての取組みを提案する。まず改めて、石鎚山の問題点と課題をまとめると下記のとおりである。

#### 3-1. 団体向け「商品造成」について

##### (1) 道幅が狭いため団体ツアー行程が限定される

- ・登山ツアーは、大型バスを使用した貸切が多いため道幅が狭く、町道瓶ヶ森線（UFOライン）を通行できない。
- ・マイクロバスによるツアーは設定人数が限られ、単価が高くなる。
- ・登山の魅力である縦走や山小屋で宿泊する登山ツアーが少ない。

**解決策** 料金が高くても、石鎚山系を縦走してみたいと考える登山愛好家に対してマイクロバスを活用した少人数ツアーの造成を図る。

##### (2) 団体ツアーが必要とする施設が不足

- ・農産物直売所を行程に入れる場合、時間的制約や品揃えの問題等が発生する。
- ・昼食等の予約ができない施設は立ち寄りが難しい。
- ・地元ならではの食事や商品を提供して欲しい。

**解決策** ①東予港内での臨時農産物直売所の設置検討  
②団体客を受け入れるための体制づくり  
③地元食材を活用した食事等の提供（昼食弁当）

##### (3) ハイシーズンにおける登山者集中

- ・5月、10月の土休日は石鎚山山頂が混雑する。

**解決策** ①ハイシーズンにおける平日でのツアー造成検討  
②ハイシーズン以外のツアー造成検討（夏休みの家族旅行など）  
③瓶ヶ森や伊予富士等を巡るツアー造成検討

##### (4) ガイドが不足

- ・中高年の登山者は知識が豊富なガイドを必要としている。

**解決策** 旅行会社が依頼できる有料ガイドの養成

## 団体向け「商品造成」における各提案資料

アドバイザリー会議からの提案

### 1 団体向け「商品造成」について

解決策：団体ツアーで使いやすい施設



事例紹介：高知龍馬空港「空飛ぶ八百屋」



**【概要】**

高知龍馬空港内、出発ロビー階において、朝どれ野菜を中心に高知野菜を販売。  
「土佐らしい空港のしつらえ」をコンセプトに、高知工科大や賛同する農家と共に行ったプロジェクト

- 開設時期…平成27年11月～
- 事業主体…高知空港ビル
- 関係者…高知空港ビル、農家、高知工科大学
- まとめ…店頭での試食販売も行って、観光客や帰省客にも好評



3

アドバイザリー会議からの提案

### 1 団体向け「商品造成」について

解決策：地元食材を活用した食事の提供

事例紹介：本川あけぼの弁当



**【概要】**

高知県いの町本川地区の郷土料理研究グループが、地元食材を使った郷土料理を弁当にして、登山客等に販売。

- ポイント…本川地区の3エリアで受け渡し可
- 希望価格に応じた注文
- 掛け紙などに工夫
- まとめ…登山客に評判が良く、地元食材のPRや経済効果に繋がる



4

アドバイザリー会議からの提案

### 1 団体向け「商品造成」について

解決策：ハイシーズン以外のツアー造成



5

### 3-2. 個人向け「商品造成」について

#### (1) 運転による疲労蓄積で事故等のリスク

- ・個人登山者はマイカー利用が多くなる。
- ・長時間運転や夜行運転を行う場合が多い。

#### (2) 公共交通の連携

- ・他交通モード同士の連携によるセット券造成にあたり、事務処理等の課題がある。
- ・関西と東予地区を結ぶ高速バスを運行しており、路線バスとの連携も考えられる。

**解決策** ①利便性及び価格面で有利な、公共交通機関が連携したセット券の造成  
 ②事務処理を外部委託することによりスムーズな販売体制の構築

#### (3) 登山のアクセス手段が不足

- ・路線バスについて、始発便でなければ日帰り登山が困難。季節便等の運行検討。
- ・登山シーズンにあわせて町道瓶ヶ森線（UFOライン）にバスを運行できないか。

**解決策** ハイシーズンにマイクロバスなどを活用した着地型旅行商品の検討

#### (4) 地域にお金が落ちない





- ・登山のみを目的とした石鎚山系来訪者は地域への滞在時間が短い。

**解決策** ①既に商品化されているエコツアー等の着地型旅行商品の磨き上げ  
 ②宿泊客向け着地型旅行商品の造成検討


アドハイザリー会場からの提案

### 2 個人向け「商品造成」について

大阪～西条市における交通機関の比較

|  | 所用時間   | 本数<br>(片道あたり) | 価格<br>(片道)                           | 早朝<br>到着 | 利点              | 疲労度 |
|--|--------|---------------|--------------------------------------|----------|-----------------|-----|
| 鉄道    | 約3時間   | 17便           | 10,040円<br>(通常期指定)                   | 不可       | 本数、到達時分         | ○   |
| フェリー  | 約8時間   | 1便<br>(夜行便)   | 6,690円<br>(2等寝台)                     | 可能       | 横になれる<br>風呂・食事可 | ◎   |
| 高速バス  | 約5～7時間 | 9便<br>(夜行1便)  | 4,850円                               | 可能       | 安価・乗り換えなし       | △   |
| 車     | 約4時間   | -             | ※14,960円<br>高速+ガソリン<br>※1L10kmの燃費で計算 | 可能       | 自由な時間           | ×   |

○登山者の特徴→早朝から登りたい(早朝に現地に着く必要性)  
 ザック等の大きな荷物がある(手荷物収容)  
 移動中はゆっくり休みたい(疲労軽減)  
 →フェリーの優位性

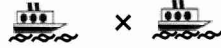


アドバイザリー会議からの提案

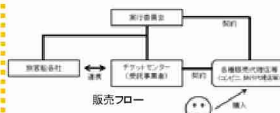
## 2 個人向け「商品造成」について 解決策 利用しやすいきっぷなどの充実



事例紹介：瀬戸内国際芸術祭「フェリー乗り放題3日間乗船券」



使用可能航路一覧



### 【概要】

瀬戸内国際芸術祭期間中の連続した3日間、

8航路のフェリーに乗り放題のきっぷ

価格…大人2,200円

関係会社…旅客船事業者7社

販売箇所…コンビニエンスストア、旅行代理店、観光協会等

販売スキーム…受託事業者が事業者間の精算や販売店との契約などを一括して行う。瀬戸芸の場合は、内部にチケットを扱う部門を設置し、事業を行った。



アドバイザリー会議からの提案

## 2 個人向け「商品造成」について 解決策 利用しやすいきっぷなどの充実



事例紹介：まるごとバリューきっぷ



### 【概要】

駒ヶ岳へのバスとロープウェイの企画きっぷ。高速バス利用だけでなく、菅の台からマイカープランでの設定もある。2009年からの設定で、名古屋線以外にも新宿線、立川線、梅田線と同様の企画きっぷを取り扱っている。

区間…名鉄BC→(高速バス)→駒ヶ根IC→(路線バス)→菅の台BC→(路線バス)→しらび平→(ロープウェイ)→千畳敷

値段…(往復)大人8000円

関係会社…名鉄バス、伊那バス、信南交通、中央アルプス観光(RW)

販売スキーム…名古屋線の幹事会社のため名鉄バスが集約して行っている。

利用の様子…バス路線利用全体のうち約1%。シェアは少ないが、このきっぷでの新規観光需要となる。ピーク時は7～9月の夏場となり、直近2年間で約1.6倍の伸び。

設定経緯…中央アルプス観光が名鉄グループのため、最初はグループ会社支援も含まれている。

夏季の名鉄バス運行便の菅の台バスセンター乗り入れもその一環。ロープウェイ側も特典など、連携の話を積極的に持ちかけている。



アドバイザリー会議からの提案

## 2 個人向け「商品造成」について 解決策 着地型旅行商品の検討



事例紹介：「千年のかくれんぼ」商品企画書より

### 【概要】

「落合集落・ちいおりマイクロバスプラン」

重要伝統的建造物群保存地区に指定されている落合集落の中に入り、高地急傾斜地の暮らしを探究。

行程…大歩危駅→祖谷のかずら橋→落合集落→ちいおり→大歩危駅

値段…(大人・子ども)9,400円

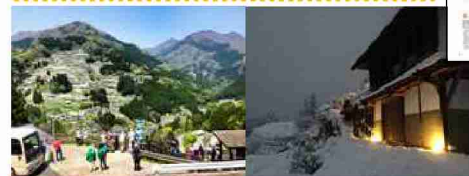
設定…1年通し

主催者…一般社団法人そらの郷

その他…行程中の道が狭いためマイクロバスを使用。



多彩なコース一覧



アドバイザー会議からの提案

## 2 個人向け「商品造成」について

解決策 着地型旅行商品の検討

事例紹介：「城西館がおすすめする」  
高知が10倍楽しくなる旅



**【概要】**  
「とさこいツアー“高知が10倍楽しくなる旅”は、高知県の老舗旅館「城西館」が開発した体験型オプションツアー。

コンセプト…ご宿泊のお客様向けに高知の旅をより楽しんで頂くために「地元民が作るツアー」をコンセプトに、30を超えるオリジナル体験型観光プログラムを提供。  
具体例…〇〇漁体験、写経体験、まち歩きなど。登山関係としては瓶ヶ森ウォーキングのコースがある(左図参照)

12

### 3-3. 今後の受入環境整備について

#### (1) 石鎚山系登山に関わる基本的情報の発信不足

- ・縦走できることが石鎚山系の魅力だが、情報発信が弱い。
- ・石鎚山の魅力的な景観を情報発信すべき。

**解決策** HPやSNSを活用した魅力的でタイムリーな情報発信

#### (2) 登山道の危険箇所やアクセス道路の整備が不十分

- ・天狗岳へのアクセスなど、事故を未然に防ぐ整備が必要。
- ・瓶ヶ森林道の拡幅整備や県道への昇格。＝バスが入ってこれるようになる。
- ・登山における危険箇所をパンフレットなどに明記すべき。

**解決策** ①継続的な登山道の管理及び危険箇所の整備

②県（愛媛、高知）等との連携による林道の整備

③登山道の危険箇所の周知徹底

#### (3) 登山客のニーズに対応できていない

- ・ワンストップ窓口化を早急にしたい方がよい。
- ・様々なプランが選択できる情報センターの設置検討。
- ・登山客は荷物が多く、公共交通での移動が大変だが、手荷物預所が不足している。
- ・ガイドを希望する中高年等の登山者に対して、知識豊富なガイドが必要。
- ・登山とサイクリングの連携プランを検討できないか。

**解決策** ①石鎚山系の観光情報・宿泊施設等の情報窓口の一元化

②荷物の一時的預かり、配送サービスの拡充

③ガイドの養成

④サイクリングやトレッキング、スキー等のアウトドアスポーツとの連携





## 参考資料

第1回 観光まちづくりアドバイザー会議 出席者名簿

平成28年10月26日(水) 15:30～ 西条市役所本館 502 会議室

※敬称略

【委員】

| 所属                | 役職              | 氏名    |
|-------------------|-----------------|-------|
| 四国ツーリズム創造機構       | 事業推進本部長         | 真鍋 省二 |
| 愛媛大学社会共創学部        | 准教授             | 井口 梓  |
| 株式会社JTBサン&サン西日本   | マネージャー          | 津上 秀幸 |
| 株式会社バステルツアー       | 代表取締役社長         | 梶 孝彰  |
| 株式会社トラベルギャラリー大阪本社 | 課長              | 沖本 浩一 |
| 四国運輸局             | 観光部長            | 堤 俊哉  |
| 四国開発フェリー株式会社      | 参与              | 井上 裕士 |
| 瀬戸内運輸株式会社         | 運輸部 次長          | 川田 卓哉 |
| 石鎚ロープウェイ株式会社      | 代表取締役           | 伊藤 和豊 |
| 四国旅客鉄道株式会社        | 総合企画本部 地域連携室 副長 | 伊藤 広治 |
| 休暇村瀬戸内東予          | 営業課長            | 眞嶋 祐介 |
| 株式会社石鎚観光          | 社長              | 白石 文高 |
| 木の香温泉             | 代表取締役社長         | 森 憲司  |

【随行・地元関係者】

|                  |         |       |
|------------------|---------|-------|
| 四国ツーリズム創造機構      | マネージャー  | 神野 博之 |
| 瀬戸内運輸株式会社        | 営業課 係長  | 藤田 晋平 |
| 石鎚ロープウェイ株式会社     | 営業課長    | 瀧山 俊介 |
| 株式会社石鎚観光         |         | 松本 勝  |
| 木の香温泉            | 支配人     | 久保 裕一 |
| 合同会社アークリード       | 代表社員    | 高橋 佳裕 |
| 株式会社 旅 tabi.info |         | 小林亜紀代 |
| 株式会社四国遍路         | 代表取締役社長 | 佐藤 崇裕 |

【行政】

|                  |                 |       |
|------------------|-----------------|-------|
| 西条市              | 副市長             | 真鍋 和年 |
| 〃                | 産業経済部 副部長       | 柳原 政彦 |
| 〃                | 産業経済部 産業経済担当専門官 | 安田 健  |
| 〃                | 産業経済部 観光物産課 副課長 | 河端 孝志 |
| 〃                | 産業経済部 観光物産課 観光係 | 日野由加里 |
| 久万高原町            | 課長              | 中川 邦彦 |
| 〃                | 班長              | 木下 勝也 |
| 〃                | 主事              | 川崎 竜司 |
| 高知県産業振興推進部 計画推進課 | 地域支援企画員(いの町)    | 西森聡史朗 |
| いの町本川総合支所        | 産業建設課 課長補佐      | 天野 浩志 |
| 〃                | 産業建設課 土木建設係長    | 石川 晃  |
| 〃                | 産業建設課 地域振興係長    | 山中 友和 |
| 〃                | 産業建設課 技幹        | 中村 貴暁 |
| 〃                | 産業建設課 主幹        | 高井 和美 |

【事務局】

|            |                |       |
|------------|----------------|-------|
| 四国運輸局      | 観光部 観光企画課 課長   | 木下 航次 |
| 〃          | 観光部 観光企画課 課長補佐 | 澤村 佳典 |
| 〃          | 観光部 観光企画課 係長   | 松岡 健太 |
| 四国旅客鉄道株式会社 | 総合企画本部 地域連携室   | 府中 裕紀 |
| 〃          | 総合企画本部 地域連携室   | 高島 朋江 |

第2回 観光まちづくりアドバイザー会議 出席者名簿

平成 29 年 2 月 7 日（火）13:00～ 西条市役所本館 502 会議室

※敬称略

【委員】

| 所属                     | 役 職             | 氏 名   |
|------------------------|-----------------|-------|
| 四国ツーリズム創造機構            | 事業推進本部長         | 真鍋 省二 |
| 愛媛大学社会共創学部             | 准教授             | 井口 梓  |
| 株式会社 J T B サン & サン 西日本 | マネージャー          | 津上 秀幸 |
| 株式会社 パステルツアー           | 代表取締役社長         | 梶 孝彰  |
| 株式会社 トラベルギャラリー大阪本社     | 課長              | 沖本 浩一 |
| 四国運輸局                  | 観光部長            | 堤 俊哉  |
| 四国開発フェリー株式会社           | 参与              | 井上 裕士 |
| 瀬戸内運輸株式会社              | 運輸部 次長          | 川田 卓哉 |
| 石鎚ロープウェイ株式会社           | 代表取締役           | 伊藤 和豊 |
| 四国旅客鉄道株式会社             | 総合企画本部 地域連携室 副長 | 伊藤 広治 |
| 休暇村瀬戸内東予               | 営業課長            | 眞嶋 祐介 |
| 株式会社石鎚観光               | 社長              | 白石 文高 |
| 木の香温泉                  | 代表取締役社長         | 森 憲司  |

【随行・地元関係者】

|              |        |       |
|--------------|--------|-------|
| 四国ツーリズム創造機構  | マネージャー | 神野 博之 |
| 瀬戸内運輸株式会社    | 営業課 係長 | 藤田 晋平 |
| 石鎚ロープウェイ株式会社 | 営業課長   | 瀧山 俊介 |
| 木の香温泉        | 支配人    | 久保 裕一 |
| 合同会社アークリード   | 代表社員   | 高橋 佳裕 |














【行政】

|           |                 |       |
|-----------|-----------------|-------|
| 西条市       | 産業経済部 副部長       | 柳原 政彦 |
| 〃         | 産業経済部 産業経済担当専門官 | 安田 健  |
| 〃         | 産業経済部 観光物産課 副課長 | 河端 孝志 |
| 〃         | 産業経済部 観光物産課 観光係 | 日野由加里 |
| 久万高原町     | 課長              | 中川 邦彦 |
| 〃         | 班長              | 木下 勝也 |
| 〃         | 主事              | 川崎 竜司 |
| いの町本川総合支所 | 本川総合支所長         | 天野 浩志 |
| 〃         | 産業建設課 地域振興係長    | 山中 友和 |
| 〃         | 産業建設課 主幹        | 高井 和美 |

【事務局】









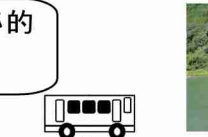




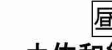




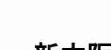

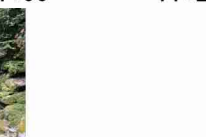


|            |                |       |
|------------|----------------|-------|
| 四国運輸局      | 観光部 観光企画課 課長   | 木下 航次 |
| 〃          | 観光部 観光企画課 課長補佐 | 澤村 佳典 |
| 〃          | 観光部 観光企画課 係長   | 松岡 健太 |
| 四国旅客鉄道株式会社 | 総合企画本部 地域連携室   | 府中 裕紀 |
| 〃          | 総合企画本部 地域連携室   | 高島 朋江 |

## 【団体用】 往復：オレンジフェリー ～コンセプト：石鎚山系を満喫～

| コース  | 行   | 程   | 宿泊  | 食事  |                   |  |     |             |
|------|---|---|---|---|-------------------|--|-----|-------------|
| 石鎚縦走 |  オレンジフェリー<br>大阪南港 F T . . . (船中泊) . . . 東予港<br>22:00 6:00 6:40 |  バス<br>山麓下谷駅<br>7:40 8:20 |  ロープウェイ<br>山頂成就社<br>8:30 9:00  |  夕食<br>石鎚山 (弥山)<br>12:00 13:00 | 船中泊/<br>土小屋       | 昼<br>夕   |     |             |
|      | 登山 弥山<br>13:50  | 登山 土小屋 or 山荘しらす (宿泊)<br>16:00   |    |                                |                   |  |     |             |
| 石鎚縦走 |  朝食<br>土小屋 or 山荘しらす<br>8:00                                    |  バス<br>瓶ヶ森駐車場<br>8:20      | 登山 瓶ヶ森<br>8:30  | 登山 西黒森<br>9:30  | 登山 自念子ノ頭<br>14:30 |  夕食<br>東黒森<br>14:50 | 船中泊 | 朝<br>昼<br>夕 |
|      |  温泉・夕食<br>木の香温泉 or 一の谷やかた<br>16:30                             |  バス<br>18:30              |  オレンジフェリー<br>東予港 . . . (船中泊) . . . 大阪南港 F T<br>19:30 22:30 (翌朝) 6:10 |                                |                   |  |     |             |









備考：町道瓶ヶ森線・瓶ヶ森西線（UFOライン）経由のため、マイクロバス（20名程度）を想定  
 一の谷やかたは、夕食のみ

## 【団体用】 往：オレンジフェリー 復：JR ～コンセプト：石鎚山と仁淀川の自然体験～

| コース          | 行   | 程   | 宿泊   | 食事  |   |   |   |   |   |  |   |  |   |        |
|--------------|---|---|--|---|---|---|---|---|---|--|---|--|---|--------|
| 石鎚山<br>カヌー体験 |  オレンジフェリー<br>大阪南港 F T . . . (船中泊) . . . 東予港<br>22:00 6:00 6:40 |  バス<br>山麓下谷駅<br>7:40 8:20 |  ロープウェイ<br>山頂成就社<br>8:30 9:00 |  夕食<br>石鎚山 (弥山)<br>12:00 13:00 | 船中泊/<br>土小屋   | 昼<br>夕  |   |   |   |  |   |  |   |        |
|              | 登山 弥山<br>13:50  | 登山 土小屋<br>15:30   |                               |                                |   |   |   |   |   |  |   |  |   |        |
| 石鎚山<br>カヌー体験 |  朝食<br>木の香温泉<br>8:30   |  バス<br>9:30                |                                |  バス<br>10:20                    |  |  バス<br>11:00 |  |  バス<br>11:20 |  バス<br>11:30 |  夕食<br>土佐和紙工芸村<br>16:00 |  バス<br>16:20 |  JR<br>伊野駅<br>16:46 |  JR<br>新大阪駅<br>20:38 | 朝<br>昼 |
|              |   |                          |                               |                                |   |   |   |   |   |  |   |  |   |        |

備考：町道瓶ヶ森線・瓶ヶ森西線（UFOライン）経由のため、マイクロバス（20名程度）を想定

# 【団体用】 往復：貸切バス ～コンセプト：石鎚山信仰と道後温泉～

| コース         | 行   | 程 | 宿泊       | 食事          |
|-------------|---|---|----------|-------------|
| 石鎚山<br>道後温泉 | <p>伊予三湯の1つ</p> <p>関西圏 8:00</p> <p>バス</p> <p>屋食・温泉 本谷温泉 13:00</p> <p>バス</p> <p>石鎚神社 14:30</p> <p>バス</p> <p>15:30</p> <p>地元ガイドによる神社の説明</p> <p>夕食 16:30</p> <p>休暇村瀬戸内東予(泊)</p>      |   | 休暇村瀬戸内東予 | 昼<br>夕      |
|             | <p>朝食</p> <p>休暇村瀬戸内東予 7:00</p> <p>バス</p> <p>山麓下谷駅 8:40</p> <p>ロープウェイ</p> <p>8:50</p> <p>山頂成就社</p> <p>登山</p> <p>9:00</p> <p>石鎚山(弥山)</p> <p>登山</p> <p>9:10</p> <p>12:20</p> <p>天狗岳</p> <p>登山</p> <p>13:00</p> <p>13:20</p> <p>弥山</p> <p>13:30</p> <p>13:50</p> <p>地元ガイドによる登山</p> <p>登山</p> <p>15:30</p> <p>土小屋</p> <p>バス</p> <p>17:00</p> <p>お土産 道の駅天空の郷さんさん 17:20</p> <p>バス</p> <p>18:20</p> <p>夕食・温泉 道後温泉(宿泊)</p>     |   | 道後温泉     | 朝<br>昼<br>夕 |
|             | <p>朝食</p> <p>道後温泉 9:00</p> <p>松山市内観光(午前中) 13:00</p> <p>バス</p> <p>18:00</p> <p>関西圏</p>    |   |          | 朝<br>昼      |

備考:大型バス可